

令和3年度

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語

No.23



黒瀬大屋遺跡出土馬形（^{馬形}の位置で出土）

黒瀬大屋遺跡において、古代の旧流路内から馬形が出土しました。

馬形とは、祭祀の場において罪や穢れを移した人形を別の世界へ運ぶ乗り物、雨乞いなどの際に神様への捧げ物として使用した板状木製品です。今回の出土が、市内では初めての事例です。
(※詳細な報告は P33-38 研究報告2「黒瀬大屋遺跡出土の馬形」参照)

目 次

I 史跡この1年	2	3 史跡の保護・管理	16
1 北代繩文広場	2	4 展示・普及	19
2 婦中安田城跡歴史の広場	3	5 刊行物	21
II 埋蔵文化財調査概要報告	4	6 活用	21
1 黒崎種田遺跡		7 調査研究	22
2 明神山遺跡		8 研修等参加	24
3 富山城下町遺跡主要部		9 組織・事業費	24
4 小長沢II遺跡		IV 研究報告	
5 二俣遺跡		1 土製耳飾考【堀沢祐一】	25
6 若竹町遺跡		2 黒瀬大屋遺跡出土の馬形【堀内大介】	33
7 吳羽山の巨大防空壕		3 越中丸山焼銘印・窓印・文様	
III 令和3年度事業概要	10	〔鹿島昌也・坂田志穂〕	39
1 埋蔵文化財調査実績	10	4 大利屋敷遺跡の出土品について	
2 遺跡地図管理	15	〔鹿島昌也・納屋内高史〕	45

I 史跡この1年

はじめに

北代縄文館展示室と安田城跡資料館は、新型コロナウイルス感染症対策として、令和3年8月18日（水）から9月12日（日）まで臨時休館しました。

再開後は、広場への来場者にはマスクの着用等の表示を臨時休館前と同様に行い、ホームページでも再度案内しました。また、資料館等の展示施設の入館者制限も臨時休館前と同様に継続し、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めました。

1 北代縄文広場

(1) ミニ企画展「追分茶屋遺跡」(7/13~1/23)を開催しました。

追分茶屋遺跡は、縄文時代中期（前葉）の集落遺跡です。昭和58（1983）年度の調査では、堅穴建物跡5棟、埋甕1基、ピット（穴）群がみつかりました。調査区の北東側に堅穴建物跡を多く確認し、堅穴建物跡からやや離れた南西側にピット群を確認しました。

出土遺物は、縄文土器、土製品、石器等です。遺物は主に、堅穴建物跡やピット群から出土し、土器の多くが細片でした。縄文土器は主に、中期（前葉）の新崎式です。土製品は、土偶が出土しています。土偶は、眉や鼻をY字形の粘土紐を使い、目や口を刺突して表しています。

石器は、磨製石斧、打製石斧、石鎌、石匙（一端につまみ状の突起があり、するどい刃部をもつ石器）等が出土しています。



出土した土器や石器等

(2) ミニ企画展「古沢遺跡」(1/25~7/10)を開催しています。

古沢遺跡は、旧石器・縄文・奈良・平安時代に営まれました。

今回の展示は、昭和62（1987）年の発掘調査を基に、縄文時代の遺構や遺物について紹介しています。発掘調査では堅穴建物跡は見つからず、多くの穴や土坑を確認しました。

出土遺物は、縄文時代中期から晩期の土器、石器、土製品などです。石器は、磨製石斧、打製石斧、たたき石、圓石、石棒、石刀などです。土製品には、笛状土製品があり人面を形どっています。刺突により目、口を表現し、眉や鼻は粘土を貼り付けています。底部の穴は、口とつながっており、吹いてみると、小さな高い音がわずかに出ますが、土笛か否かは今後の研究が待たれます。



笛状土製品 正面



笛状土製品 斜めから

（小松博幸）

2 婦中安田城跡歴史の広場

(1) 安田城跡再整備事業

婦中安田城跡歴史の広場では、地域の貴重な歴史遺産である史跡安田城跡を適切に保護・公開し、歴史学習や憩いの場として一層の利用促進を図るため、再整備事業を進めています。

平成 30 年度から基本計画や基本・実施設計を順次策定し、令和 3 年度より工事に着手しました。令和 3 年度の事業内容は次のとおりです。

①本丸土壘階段改修工事

本丸土壘にある 2 箇所の階段を改修しました。階段を長寿命化し、昇降の安全性を高めたことで、本丸土壘を活用した歴史学習をより積極的且つ持続的に行えるようになりました。

再整備で行った工夫

- 水による腐朽を防ぎ、耐久性を高めるため、材料を丸太材からプラ擬木に変更しました。
- 急傾斜な階段の昇降の安全性を高めるため、ステップを 1 段追加して段上げを約 2 cm 低くし、傾斜角度を約 3° 緩やかにしました。また上面が平らな二本組木を採用したこと、踏面のフラット面の奥行が若干拡がりました。
- 土壤流出抑制と雨天時の昇降の安全性向上のため、踏面を砂利敷にして排水性を高めました。側面には土留めのための側板を設置し、側板の溝には砂利の流出防止と排水性向上のため石をはめ込みました。土壤流出が認められた階段周囲の法面には、植生マットを施工しました。
- 階段の強度を高めるため、土壘盛土からの土圧を大きく受け下段 3 段目までの杭の根元を地盤改良しました。



北側階段（工事後）



側板周辺の施工状況

②再整備実施設計

令和 4 年度に予定している堀の南側での浚渫及び護岸改修工事等について、詳細設計を行いました。そのうち底泥対策工については、給水源の農業用水の浮遊物質質量調査を実施し、結果を反映させました。また、検討会議の意見を受けて、上記と同じ工区でカキツバタの植栽試験設備工を行うこととなったため、追加で設計を行いました。

③再整備検討会議の開催

学識経験者による再整備検討会議を開催し、工事や実施設計、再整備事業中の活用等について助言を受けました。第 3 回会議は令和 3 年 8 月 2~13 日に書面会議で実施し、第 4 回会議は工事中の同年 12 月 9 日に現地にて実施しました。

（大野英子）

氏名	所属	専門分野
西井 龍儀	富山考古学理事、一级建築士	考古学・建築
高岡 敏	とやま歴史的環境づくり研究会代表、越中史壇会会員	戦国史
廣瀬 慎一	農学博士、元富山県立大学短期大学部教授	多自然水路工法・農業農村整備
古谷 元	富山県立大学 工学部環境・社会基盤工学科 教授	地盤工学
黒田 啓介	富山県立大学 工学部環境・社会基盤工学科 准教授	環境科学・環境工学
中田 政司	富山県中央植物園長	植物環境
中村 只吾	富山大学 学術研究部教育学系 准教授	活用・地域づくり
澤野 重雄	富山市公園緑地課長	公園整備

第 3・4 回安田城跡再整備検討会議の専門家（敬称略）

※オブザーバー：文化庁文化資源活用課（整備部門）、富山県教育委員会生涯学習・文化財室

(黒崎地内)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市中心部から4.5km南方に位置し、熊野川右岸、標高20m前後の緩やかな扇状地に立地します。

調査区のすぐ北には北陸自動車道富山インターチェンジがあります。

これまでの調査で、古墳、奈良・平安、中世、近世の集落遺跡であることがわかっています。



調査区全景（北西から）

2 調査の概要

倉庫建設に先立ち、111.7m²を対象に発掘調査を行いました。

その結果、古代～中世の旧流路・土坑・ピット、中世の石組井戸を確認しました。遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、綠釉陶器、製塙土器、珠洲、越中瀬戸、土錘、鉄滓、木製品が出土しました。出土遺物のほとんどを古代の土師器と須恵器が占めます。

旧流路は、調査区南東端から、調査区中央部分にかけて検出しました。検出幅は8.2mで、深さは0.8mになります。流れの方向は南東から北西に向かっており、調査区の中央部で蛇行し、左岸の一部に礫が堆積します。

流路埋土の堆積状況を観察すると、堆積層の数が多くないことから、短期間に多量の土砂によって一気に埋まっていたと考えられます。また、旧流路と古代の遺構との切り合い関係から、旧流路の埋まった時期は、古代以降であると考えられます。

今回調査区の南東100mには平成16・17年に工場と駐車場建設に先立つ発掘調査で同様な遺構が見つかっており、旧流路は今回の調査区まで繋がっていることが確認できました。

中世の石組井戸は、調査区中央南寄りで検出しました。規模は直径1.1m、深さ0.7mで、疊層まで掘り抜いています。水溜の曲物などはありません。遺物は瀬戸美濃が1点出土しました。

発掘調査で出土した遺物の中には、綠釉陶器や製塙土器があり、特殊な用途に使われたと考えられます。



旧流路掘削状況



石組井戸掘削状況



試掘調査で出土した土師器等

3まとめ

今回の調査で、地区の南東から北西にむかって旧流路が続くこと、旧流路沿いに古代から中世の集落が広がっていることがわかりました。

出土した遺物の中に特殊な用途に使われたものが見られることから、黒崎種田遺跡で暮らした人々は、一般的な開墾集落とは違った目的の集団であった可能性があります。（細辻嘉門）

調査概要報告2 呉羽丘陵を越える近世北陸道峠道の調査

明神山遺跡

(茶屋町・寺町地内)

1 遺跡のあらまし

遺跡は吳羽丘陵の東斜面に位置します。周辺は江戸時代には北陸道が通る交通の要所であるとともに、複数の寺社などが建立される当時の名所でもありました。

吳羽丘陵フットバス連絡橋整備に伴い発掘調査を行いました。調査地点の北陸道跡は蛇行しながら丘陵を登る峠道で、調査前は遊歩道となっていました。

2 道路の変遷

上層・下層の2面で砂利敷の道路を検出しました。18世紀末から19世紀にかけての道路とみられます。下層から上層の道路へ造り変える際には、盛土や切土を行って勾配を緩くしています。上層の道路は山側に排水側溝を設けています。側溝は掘り直されていて、上層道路はさらに古段階、新段階に分かれます。道路幅は、下層道路が約4.17m、上層道路古段階が約5.7~6.5m、新段階が約3.6~4.1mです。

明治11(1878)年の天皇の行幸に際して、北東側に新しい道が造られると、調査地のルートは街道としての役目を終え、幅2m前後に規模を縮小しました。

3 峠の茶屋の陶磁器

19世紀を中心とする多量の陶磁器が出土しました。特に上方の峠から流れ込んだ土の中から茶碗類が多く見つかっています。ここ現在の地名は「茶屋町」で、かつては「鰐茶屋」と呼ばれました。地名が示すとおり、茶屋が建ち並んでいた場所で、出土した陶磁器も峠の茶屋で使われたものでしょう。

割れて焼き継ぎという修理を行った茶碗には、「鰐伊平」、「鰐安兵衛」といった人名や「峠茶や」といった地名が書かれたものがあります。焼き継ぎ屋に修理を依頼した茶屋の依頼主やその地名などが書かれたとみられます。

(野垣好史)



側溝と砂利敷を伴う近世北陸道の峠道



多量に出土した陶磁器

調査概要報告3 渋沢栄一ゆかりの耐火レンガ出土 富山城下町遺跡主要部

1 遺跡のあらまし

調査地は、富山城址公園の東 450m の旧八人町小学校グラウンド東側に位置します。昨年度の調査では旧礪川の川跡に武家地などの城下町が形成されていたことが判明しました。

2 調査の概要

昨年度に引き続き、市道路整備課による火防水路新設工事に伴い、幅 2m × 延長 20m × 深さ 1.5m の掘削工事の立会調査を実施しました。旧火防水路は、石組み水路で、現道路上下に暗渠となって北から南に流れています。新設水路の施工に影響があることから、この水路の石組み西面の石を取り外す工事が行われるため、石組みの記録作業も合わせて行いました。

昨年度の工事立会と合わせて、整理箱 50 箱以上の陶磁器や木製品・石製品・金属製品などが出土しました。
(鹿島昌也)

3 近代以前の石組み水路（火防水路）

見つかった石組み水路は、全長 23m、幅 1.44m を測ります。底面は、直径 30~40cm 程度の扁平な円礫を 4~5 列並べて敷き詰めていました。壁面は、底面よりやや小ぶりな 20~30cm 程度の扁平な円礫を矢羽根状に 4 段積み上げ、最上部には水路に面する部分を切断した扁平な円礫を並べていました。また、西側最下段の石の下に建材を転用した桐木が置かれていました。

使用された石材は、底面は安山岩、壁面は最下部が安山岩、それより上は砂岩が多く、違いがあります。水路内から出土した資料は、近代以降のものが多くみられますが、19世紀代と考えられる江戸時代のものも存在します。また、食材として利用されたと考えられるブタやニワトリ、魚の骨も出土しました。

壁面に見られる矢羽根状の石積みは、石積みの技法としては近代以降に多く見られる傾向があり、水路壁面については近代以降に構築されたと考えられます。しかし、底面や壁面最下部に用いられている石材がそれ以外の部分に用いられている石材と異なること、水路内から 19 世紀代と考えられる遺物が出土していることから、水路の下部については近代以前に構築された可能性があります。

これらのことから、今回見つかった石組み水路は、近代以前に存在した水路の壁面を、近代以降に積み直して利用し続けていた可能性が考えられます。
(納屋内高史)

(八人町地内)



位置図



石組み水路（南から）



石組み水路から出土した動物骨

4 品川白煉瓦株式会社製耐火レンガの出土

石組み水路西側の新設水路南端掘削時に、「SINAG (AWA)」と「菱形に S (. S.)」と刻印のある耐火レンガ片が出土しました。厚さ 6.0cm、幅 10.6cm、残存長 14cm を測ります。明治～昭和期に東京品川区に所在した「品川白煉瓦株式会社」で製造された耐火レンガと判明しました。

品川白煉瓦(株)は明治 8 (1875) 年、西村勝三 (明治の工業の父) が渋沢栄一 (日本資本主義の父) の協力を得て創業しました。明治 32 年に耐火レンガを商標登録 (「菱形の中に S.S.」)、明治 36 年に株式会社となり、明治 40 年には渋沢栄一が相談役を勤めました。

耐火レンガは、大正 12 年の関東大震災の翌年、JES 規格で厚さが 6.5cm となります。出土したレンガには商標がみられ、明治 33 年～大正 13 年の間に製造されたものと判明しました。

5 小学校敷地から出土した耐火レンガの用途について

旧八人町小学校は明治 6 年創立、同 26 年には仁右衛門町に新築されますが、同 32 年の市内大火で焼失、同 34 年に現在の場所に移転新築されます。耐火レンガには耐火度や混合物に違いがあり、工場の溶鉱炉やボイラー、煙突、ガス灯のガス発生炉など耐火度の高い用途のものもあれば、陶磁器や土人形、ガラス、铸物などの産業 (窯業) などにも用いられます。調査地からは耐火レンガの他、窯体の一部や焼台など窯業に関連する出土品もみされました。

明治期の小学校の教科には、図画工作 (図工) の前身にあたる「手工科」(明治 16～昭和 19 年) に陶工 (粘土細工)、いわゆる焼き物作りの項目がありました。陶磁器や土人形、ガラスなど小規模な窯業の窯や炉材として耐火レンガが使用されていたことが推測されます。

一方、明治 40 年から大正 15 年まで小学校区の下川原町 (現・日之出町) には、「呉羽焼」と呼ばれる呉羽山の粘土を用いた陶磁器の窯場が設けられていました。「呉羽焼」は明治 30 年に東京から技術者を招いて煉瓦の立窯を築き、加賀大聖寺から陶工を招き製陶が始まつたとされます。この「呉羽焼」の陶工が小学校の手工科の指導をしていたことも推測されます。

6 耐火レンガ出土の意義について

品川白煉瓦(株)製耐火レンガは、群馬県富岡製糸場や福岡県官営八幡製鉄所など、明治日本の産業革命遺産として世界遺産に登録された施設や東京瓦斯局、汐留火力発電所、近隣では新潟県佐渡金銀山遺跡の旧佐渡鉱山工作工場群跡から出土しています。また、東京の外国人居留地 (中央区明石町遺跡) や隣接する銀座レンガ街でも使用され、文明開花を象徴する遺物です。大正 3 年に開業した東京駅の赤色外装タイル (化粧レンガ) は、全て同社が納入しました。日本の近代化の象徴の一つであるこの耐火レンガは全国規模で流通していたことが推測されますが、北陸など地方における使用の実態はほとんど知られていませんでした。

八人町地区周辺は、明治後期～大正期には鉄工所や木工所などが所在し、ものづくり産業が盛んな地区で、製陶も含め各地から技術者を招き産業の近代化が推し進められていました。当時の小学校手工科の目的として、「眼と手指の修練によりて能力の発展を助け、職業教育の予備をなし、社会国家の発展を期すること」があります。手工科で行われた焼き物作りの実習用に近代化の象徴である耐火レンガを用いていたことが推測されます。耐火レンガの出土は、将来もの作り産業の一翼を担う人材を育成する小学校にも近代化の波が浸透していたことを物語り、近代富山の産業史や教育史を解明する上で貴重な発見となりました。(鹿島昌也)



出土した耐火レンガ

調査概要報告4 地区の遺跡範囲が明らかに

下邑遺跡・小長沢II遺跡

(婦中町小長沢地内)

1 遺跡のあらまし

調査地は、西を羽根丘陵、東を辺呂川に挟まれた氾濫平野に立地する。婦中町小長沢地区にあります。標高は17~20mを測ります。遺跡西側にある羽根丘陵では、縄文時代前期には平岡遺跡に大規模な集落が営まれます。弥生時代後期~古墳時代前期には、山陰に起源をもつ四隅突出型墳丘墓や県内でも有数の大きさの前方後方墳、集落からなる史跡王塚・千坊山遺跡群が所在し、古墳時代後期には二本復遺跡の横穴式石室をもつ円墳など、この地域を治めた有力者や家族の古墳が造られます。

2 調査の概要

県営ほ場整備事業に伴い水田 4.07ha を対象に遺跡の有無を確認する試掘調査を行いました。

今回の調査で、調査対象地の一部で、弥生~古代の溝、江戸時代の溝が見つかりました。

出土遺物には、弥生土器、土師器、須恵器、珠洲、近世磁器があります。



33 トレンチ 遺構検出状況

3まとめ

今年度の試掘調査の結果、調査対象地域の一部に弥生~古代、江戸時代の集落があったことがわかりました。下邑遺跡・小長沢II遺跡では6年にわたる調査で、遺跡の時代や広がりなどが明らかになりました。

二俣遺跡

(石田地内)

調査概要報告5 古代の集落縁辺部か

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市南部の二俣・石田地内に所在し、二俣川両岸、標高30mの氾濫平野に立地する弥生時代~古代の集落遺跡です。この遺跡より下流の二俣川左岸には、弥生時代の集落である上野亀田遺跡や弥生時代~平安時代前期の集落遺跡である上野井田遺跡など同時期の遺跡が広がっています。

2 調査の概要

市道石田7号線改良工事に先立ち約20m²を対象に発掘調査を行いました。その結果、上下2層の遺構面を検出しました。

上層では近世の水路、不明土坑を確認しました。水路は農耕用の水路と考えられます。洪水などで埋没したため、複数回掘り直されておりました。

下層では古代の掘立柱建物の柱穴などを確認しました。柱穴からは、古代の須恵器、土師器が出土しました。この遺跡は下流の上野井田遺跡同様に二俣川周辺の開墾集落と考えられ、今年度調査区はその集落の縁辺部にあたると推測されます。



下層全景（北から）

調査概要報告6 弥生時代終末期の堅穴建物跡を確認

若竹町遺跡

(悪王寺地内)

1 遺跡のあらまし

調査地は、土川右岸の扇状地上に立地し、標高34mの悪王寺地内にあります。調査地周辺の土川流域には、銅力遺跡や上野井田遺跡など弥生時代中期～終末期の遺跡が所在します。

本遺跡は平成19年度の本発掘調査、令和元年度の試掘調査で、弥生時代後期後半～終末期の弥生土器と堅穴建物跡を確認しています。今年度は、駐車場造成工事に伴う試掘調査で弥生土器と堅穴建物跡2棟を確認しました。

2 出土した弥生土器

出土遺物には、甕・壺・高杯・器台があります。甕の口縁は、段を持ち文様が無い形・くの字の形が多く、近江の影響を受けたとされる受け口をもつ形が数点見られます。体部は薄く作られています。長頸壺は、口縁の内側に櫛描き状の装飾が施されます。高杯・器台は丁寧にヘラミガキされ、赤彩するものがあります。これらは、弥生時代終末期の月影式に比定され、月影式の中でも古相と新相に分けられそうです。また、器種の出土割合は、この時期の組成と同じく、甕が大半を占めます。

弥生土器は、ほぼ全てが堅穴建物跡から出土しました。2棟の堅穴建物跡には切り合いが見られ、弥生土器のわずかな時期差が建て替えた時期差を反映しているようです。(泉田侑希)

調査概要報告7 戦時中の工場の工作機械移設先か

呉羽山の巨大防空壕

(安養坊地内)

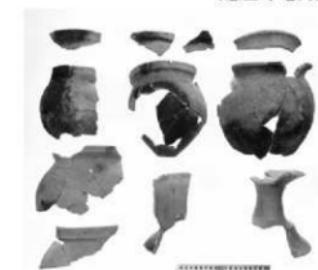
1 調査のあらまし

民俗民芸村周辺の法面保護工事中に、呉羽山の斜面に掘られた太平洋戦争時の巨大防空壕が見つかりました。崩落の恐れがあり埋めることになったため、事前に測量を行い、長さや形状を記録しました。

2 防空壕の構造

確認できた全長は69mですが、途中で崩れているために本来はさらに奥まで続いています。幅は約2m、高さは2.0～2.4mです。床面の両側は排水溝が掘られています。天井は、アーチ形や箱形など場所により違いがあります。中央付近の壁面にみられる筋骨状の抉り込みは、壁の崩落を防ぐために補強用の木材や鋼材をはめ込んだ跡と推測されます。

昭和20年4月に佐藤工業鉄工部が工場疎開を命じられて、工作機械などを移設するために掘った施設の可能性があります。(野垣好史)



出土した弥生土器



防空壕の内部

III 令和3年度事業概要

1 埋蔵文化財調査実績

(1) 発掘調査 開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積 (m ²)	調査結果	遺跡の種類
明神山 (2010168)	茶屋町、寺町	連絡橋整備工事	207.56	江戸道路、江戸構／江戸越中瀬戸、江戸瀬戸美濃、江戸伊万里、江戸小移、江戸唐津、江戸錢貨、江戸燈管、江戸簪、江戸瓦、江戸硯、明治陶磁器、明治瓦、明治窓道具、不明須恵器	交通
番神仙横穴墓群 (2010225)	安養坊字番神仙	民俗民芸村周辺法面 保護工事	37	古墳（後）横穴墓／古墳（後）須恵器、古墳（後）土師器、古墳（後）砥石、古墳（後）刀子、古墳（後）馬具、古墳（後）耳環	横穴墓
黒崎種田 (2010550)	黒崎	貸倉庫建築	111.7	古代流路、古代～中世溝、古代～中世井戸、古代～中世土坑、古代～中世ビット／古代土師器、古代須恵器、古代灰釉陶器、古代綠釉陶器、中世珠洲、江戸越中瀬戸、古代土鍋、古代輪羽口、古代鉢津、古代～江戸木製品	集落
計 3 件			356.26		

(2) 試掘調査・工事立会 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。＊は工事立会

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
打出(2010002) *	布目北	四方第1処理分区布目北地区倉垣幹線構造工事	19.58	遺跡なし
四方北庭 (2010004)	四方北庭	個人住宅建築	235	古代溝／古代須恵器、古代土師器、古代燃滓
岩瀬天神 (2010005)	岩瀬古志町	事務所建築	970	遺跡なし
岩瀬天神 (2010005)	岩瀬古志町	個人住宅建築	206.28	江戸瀬戸
日方江(2010011)	日方江字築山塙割	農機具格納庫建築	371	绳文土坑、古代溝、不明溝、不明土坑／绳文土器、古代須恵器、古代土師器、不明土師器、不明磁器
典羽本郷 (2010016)	本郷中部	倉庫建築	488	近現代田面、近現代水路／不明土師器、不明博
今市(2010023)	寺島	個人住宅建築	499	古代堅穴建物、古代～中世溝、古代～中世穴／弥生土器、古代須恵器、中世土師器、中世珠洲焼、不明鉄針
今市(2010023) *	布目	公園トイレ改修工事	37.55	弥生～古代溝、不明溝／弥生土器、古代須恵器、江戸越中瀬戸、不明土師器
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	314.44	古代土師器、江戸陶磁器、江戸木製品、近代陶磁器、近代ガラス瓶
今市(2010023) *	寺島	個人住宅建築に伴う配管工事	10.2	遺跡なし
今市(2010023)	八町東	個人住宅建築	181	古代堅穴状土坑、中世溝、不明土坑、不明ビット／古代土師器、中世珠洲
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	219.01	江戸磁器
今市(2010023) *	寺島	個人住宅建築	109.3	古代溝、古代柱穴、古代土坑／古代土師器
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	275.7	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	272.7	江戸沼池／古代須恵器、中世土師器、江戸唐津
四方荒屋 (2010026)	四方荒屋字蒼園	共同住宅建築	1,161	不明溝／不明土師質土器、不明博
四方青戸剣 (2010027)	四方荒屋字江代剣	集合住宅建築	423.09	明治伊万里
四方青戸剣 (2010027)	四方荒屋字江代剣	個人住宅建築	756.36	弥生土器

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
千原崎(2010030)	千原崎1丁目	個人住宅建築	288.57	遺跡なし
森(2010031)	森1丁目	埋設物調査	2,152.03	不明土坑、不明溝
瀧町(2010033)	瀧町5丁目	個人住宅建築	208.25	江戸伊万里
瀧町(2010033)	瀧町5丁目	駐車場造成	207	遺跡なし
瀧町(2010033)	瀧町5丁目	個人住宅建築	360.32	遺跡なし
瀧町(2010033)	瀧町5丁目	個人住宅建築	343.51	中世土師器、中世珠洲
水落南(2010037)	水落字南割	個人住宅建築	273.71	遺跡なし
浜黒崎飯田(2010041)	浜黒崎	個人住宅建築	383	不明溝、不明土坑状構造／中世土師器
横越(2010046) *	野田字戸尻割	工場増築に伴う工事付 帶建設物の建築・整備	1,500	縄文土器、古代土師器、江戸磁器、江戸陶器
平根龜田(2010048) *	平根	は場整備事業による暗渠排水工事	10,523	不明土坑／江戸越中瀬戸、江戸伊万里、不明施釉陶、不明磁器、昭和ガラス瓶
宮町(2010053)	宮町	個人住宅建築	258.36	江戸漸戸美濃、不明磁器
宮条南(2010055) *	宮条字浦野割	擁壁工事	26.04	不明土師器、不明鉄製品
水橋小出(2010067)	水橋小出	個人住宅建築	341.45	古代須恵器、中世土師器、近代陶磁器
東老田1(2010085)	東老田	個人住宅建築	499.78	近代磁器、近代ガラス瓶
真羽コウヅバラ(2010149)	真羽町字水上	建売住宅建築	232.77	遺跡なし
真羽コウヅバラ(2010149)	北代字中尾	個人住宅建築	283.30	遺跡なし
真羽モグラ池(2010161)	追分茶屋	埋設物調査	521	古代内黒土師器
明神山(2010168)	茶屋町	連絡橋整備事業	755	近代瓦、近代磁器
真羽富田町(2010182) *	北代字伊佐波	携帯電話基地局設置	4	遺跡なし
真羽富田町(2010182)	北代字伊佐波	個人住宅建築	459	古代柱穴、土坑、谷地形／縄文土器、古代土師器、古代須恵器、江戸磁器
北代中尾(2010183)	北代	個人住宅建築	195.25	古代須恵器、不明磁器
北代村巻1(2010196)	北代村字巻	賃貸住宅建築	1,454.7	遺跡なし
北代加茂下Ⅲ(2010203)	北代新字加茂下	宅地造成	1,518.85	縄文土坑、縄文構、古代土坑、不明土坑／縄文(中) 縄文土器、縄文(不明) 縄文土器、古代土師器、江戸陶器、近代陶器
北代加茂下Ⅲ(2010203)	北代新字加茂下	個人住宅建築	381.94	遺跡なし
番神仙横穴墓群(2010225) *	安養坊字番神仙	民俗民芸村周辺法而保護工事	1,560	古墳(後) 横穴、不明横穴、不明溝、不明土坑／古墳(後) 須恵器、古墳(後) 土師器、古墳(後) 横穴式石室石材、昭和焼夷弔、昭和実包
百塚住吉(2010232)	宮尾	個人住宅建築	224.25	遺跡なし
百塚住吉D(2010235)	宮尾	個人住宅建築	272.42	古墳土師器、江戸伊万里
豊田大塚・中吉原(2010246)	豊田本町2丁目	個人住宅建築に伴う盛土造成	390	遺跡なし
豊田大塚・中吉原(2010246)	豊田本町3丁目	共同住宅建築	608	弥生(終) 弥生土器、江戸陶磁器
豊田大塚・中吉原(2010246)	豊田本町2丁目	個人住宅建築	316.04	弥生(終) 縄、縄文構／弥生(終) 弥生土器、縄文中世土師器
豊田大塚・中吉原(2010246) *	豊田本町2丁目	個人住宅建築	1	遺跡なし
下富居(2010250) *	下富居1丁目	豊田町一丁目地区下水管改修工事	142.7	不明磁器
下富居(2010250)	下富居1丁目字仕官割	集合住宅建築	1,910.44	弥生(中) 土坑、弥生(中) ビット、弥生(中) 土器だまり／弥生(中) 弥生土器
下富居(2010250)	下富居1丁目字勝膳割	個人住宅建築	399.45	弥生土器
中富居(2010251)	中富居	分譲住宅造成	1,6718.58	弥生土器
飯野小百合(2010253)	飯野字八幡割	埋設物調査	2,040.9	江戸伊万里

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
小西畠跡 (2010256)	小西字砂畠割、三上	駐車場・資材置場造成	1,090	遺跡なし
水橋二杉 (2010262) *	水橋二杉	市道水橋二杉6号線改良工事	80	中世土師器、江戸陶器
水橋沖(2010265)	水橋沖	個人住宅建築	661.2	不明溝、江戸土坑、不明遺構／江戸越中漁戸、不明陶器、不明木製品
水橋石割II (2010278)	水橋石割	個人住宅建築	881.03	遺跡なし
水橋金広・中馬場 (2010286) *	水橋中馬場	市道水橋金広中馬場線外1線改良工事	32	中世溝、中世土坑／古代土師器、中世土師皿
花ノ木C (2010354)	東老田	個人住宅建築	324	自然流路／古代須恵器(甕)
花ノ木C (2010354) *	東老田	東老田地区配水管布設工事	40	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	699.31	古代土師器、古代須恵器
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	450.8	古代～中世溝、中世土坑、中世甕／古代須恵器、古代土師器、古代鉄滓、中世土師器
友坂(2010429)	婦中町下条	個人住宅建築	293.3	自然流路／中世土師器
友坂(2010429)	婦中町下条	個人住宅建築	288.48	遺跡なし
友坂(2010429) *	婦中町友坂	個人住宅建築	41	古代須恵器、古代土師器、古代土鍋、古代輪羽口、古代鉄滓、中世土師器、中世土鍋
友坂(2010429)	婦中町下条	個人住宅建築	331.28	古代土坑／古代土師器、古代須恵器、鉄滓
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	220	古代土師器、中世漁戸
大崎城跡 (2010439) *	五福	五福芝生スポーツ広場防犯カメラ設置業務	2	遺跡なし
大崎城跡 (2010439) *	五福	伐根工事	3,030.73	近現代磁器、ガラス片、不明鉄器
富山城跡 (2010442) *	本丸	コインバーキング設置	670	近代磁器、近代瓦、不明陶器
富山城跡 (2010442) *	本丸	光回線開通事業に伴う地中通信管路工事	21.25	江戸石列、江戸～近代溝／江戸土師器、江戸陶器、江戸瓦、近代瓦、近代鉄釘、不明甕、不明管
富山城跡 (2010442) *	本丸	管理事務所建築	70.51	明治瓦、明治レンガ
富山城跡 (2010442)	丸の内	個人住宅建築	109.02	近代陶器、近代磁器
千石町(2010444)	千石町2丁目	個人住宅建築	318.69	中世溝、江戸土坑、江戸溝、江戸背削水路／中世珠洲、中世土師器、江戸越中漁戸、江戸伊万里、江戸漁戸、江戸小杉、江戸瓦、近代陶磁器、近代瓦、近代ガラス瓶
開ヶ丘弧谷 (2010484)	西押川字荒山	県営農村地域防災減災事業平岡地区行付池堤体改修工事	128	遺跡なし
各願寺前 (2010500)	婦中町新町	事務所併用住宅建築	523.95	遺跡なし
各願寺前 (2010500)	婦中町長沢	物置建築	96	遺跡なし
小長沢II (2010530)	婦中町小長沢	個人住宅建築	218	中世土師器
小長沢II (2010530) *	婦中町小長沢	婦中町小長沢地区配水管布設工事	35	遺跡なし
小長沢II (2010530)	婦中町新町	県営ほ場整備事業小長沢地区ほ場整備工事	40.700	弥生溝、古代溝、江戸溝／弥生土器、古代土師器、古代須恵器、中世珠洲、江戸磁器
下邑東(2010543)	婦中町羽根	個人住宅建築	602	江戸磁器

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
黒瀬大屋 (2010549)	黒瀬字大屋割	資材置場造成	3,432.9	弥生溝、奈良～平安窓穴建物、奈良～平安溝、奈良～平安土坑、奈良～平安ビット、奈良～平安土器溜まり、奈良～平安旧河川祭祀遺構、平安土坑／弥生土器、奈良～平安須恵器、奈良～平安土師器、奈良～平安铁滓、奈良～平安本製品（馬形、加工工）、奈良～平安植物の種（モモなど）、中世土師器皿、江戸観水通室
黒崎種田 (2010550)	黒崎字種田割	駐車場造成	370	中世珠洲、不明土師器
黒崎種田 (2010550)	黒崎字寺田	倉庫建築	885	古代溝、古代土坑／古代須恵器、古代土師器、古代製塙土器、近代磁器
黒崎種田 (2010550)	黒崎	個人住宅建築	482.02	古代土師器、中世土師器
黒崎種田 (2010550)	黒崎	共同住宅建築	924	遺跡なし
八日町(2010551)	八日町	個人住宅建築	222.18	中世土師器、中世瀬戸美濃、江戸伊万里、不明磁器
朝菜町島ノ木 (2010555)	上袋	個人住宅建築	353	遺跡なし
朝菜町島ノ木 (2010555)	上袋	個人住宅建築	257.85	古代土坑、古代自然流路／平安土師器、古代須恵器、不明土師器
朝菜町島ノ木 (2010555)	上袋	個人住宅建築	413.08	中世土坑、中世ビット、中世溝、中世窓／古代土師器、中世土師器
山室西田 (2010559)	山室	集合住宅建築	469.63	遺跡なし
山室西田 (2010559)	山室字西田割	個人住宅建築	198.83	遺跡なし
山室東田 (2010560)	太田字近藤田割	個人住宅建築	270.77	遺跡なし
上新保(2010564)	上新保	集合住宅建築	999.95	中世土坑、不明土坑、不明溝状遺構／古代土師器、中世土師器、不明土師器
上新保(2010564)	上新保	分譲宅地造成	1,108	不明ビット／古代土師器、江戸磁器
千里D(2010633)	緑中町千里	コンビニエンスストア建築	3,122.67	江戸旧河川、不明溝、不明土坑、不明ビット／江戸廢津
千里D(2010633)	緑中町千里	倉庫建築	230	遺跡なし
千里D(2010633)	緑中町千里	納屋移設工事	62.94	遺跡なし
千里E(2010634)	緑中町千里	個人住宅建築	486.78	中世ビット、中世土坑
要尾I(2010638)	八尾町田中字五保田	個人住宅建築	567.38	江戸伊万里、不明陶器
道場I(2010641)	緑中町道場	個人住宅建築	530.48	遺跡なし
中名I(2010646)	緑中町中名字阿弥大地	個人住宅建築	330.9	中世土師器
總川館跡 (2010652)	總川	駐車場舗装新設工事	482	遺跡なし
友杉(2010653)	友杉	個人住宅建築	255	不明土師器
任海宮田 (2010654)	任海	個人住宅建築	387.2	古代土師器
任海宮田 (2010654) *	任海	市道任海1号線外1線改良工事	31	遺跡なし
任海宮田 (2010654) *	任海	任海地区配水管布設工事	34	遺跡なし
任海宮田 (2010654)	任海	個人住宅建築	466.73	遺跡なし
下熊野(2010672) *	安養寺	佐田川改良工事	20	遺跡なし
二俣(2010674) *	上野	熊野処理分区上野地区下水道布設工事	64	遺跡なし
二俣(2010674)	石田	市道石田7号線改良工事	115	古代溝、古代土坑／古代土師器、古代須恵器
二俣(2010674) *	石田	市道石田7号線改良工事	20	古代ビット、中世溝（旧河川）、江戸不明遺構／古墳土師器、古代土師器、古代須恵器、中世土師器、中世珠洲、江戸越中漁戸、江戸前系陶磁器
石田北(2010675)	石田	個人住宅建築	227.39	近代自然流路／近代伊万里、近代磁器、不明瓦器

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
石田打宮 (2010676)	小杉	個人住宅建築	330.73	谷地形／江戸土師器
石田(2010677)＊	経力	熊野処理分区上野地区 下水管設工事	60	江戸磁器、明治～大正磁器
若竹町(2010684)	悪王寺	駐車場造成	514	弥生（後～終）堅穴建物、不明土坑／ 弥生（後～終）弥生土器、石核、砾石、近代陶器
若竹町(2010684) ＊	悪王寺	駐車場造成	24	古代土坑、不明土坑／弥生土器、古代 須恵器、不明土師器、不明石核
宮保(2010685)	宮保	拌殿・本殿建築、駐車 場造成	880	江戸陶器
布市北(2010692)	布市	個人住宅建築	432.95	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田	個人住宅建築	384.4	遺跡なし
減鬼(2010750)	八尾町減鬼	農機具格納庫建築	103	縄文（中）土坑、縄文（中）柱穴／縄 文（中）縄文土器、縄文（中）黒曜石 剣片
減鬼(2010750)＊	八尾町減鬼	農機具格納庫建築	5	縄文（中）土坑／縄文（中）縄文土器
大井(2010773)＊	大井	市道月岡大井線改良工 事	60	遺跡なし
上ノ山城跡 (2010855)	八尾町諏訪町	城ヶ山公園内建築物等 撤去処分業務委託	170	遺跡なし
岩木(2010883)＊	岩木	岩木地区配水管敷設替 工事	108	遺跡なし
中島(2010996)	榆原字中島	個人住宅建築	1,147.1	江戸溝、不明溝、不明土坑／江戸陶磁 器、寛永通宝、江戸瓦器、不明陶磁器、 不明漆器
布尻(2011001)＊	布尻	中山間総合整備事業に よる改良保全工事	447	江戸越中漬戸、江戸小杉
富山城下町道跡 主要部(2011048) ＊	八人町	市道区画道路第3307 号線改良工事	200	近代水路、近世初期流路／江戸陶器、 江戸磁器、江戸瓦、江戸銭貨、近代陶器、 近代磁器、近代瓦、近代ガラス瓶、 近代レンガ、近代骨製品、近代動物骨
富山城下町道跡 主要部(2011048) ＊	八人町	市街区画道路第3307 号線改良工事に伴うガ ス管移転工事	7	中世以前河跡、江戸造成土／江戸唐 津、江戸伊万里、江戸越中漬戸、江戸 石臼、江戸瓦、明治磁器、明治陶器
計130件(うち 工事立会＊34件)			128,955.23	

(3) 令和2年度遺跡(3月分)

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
東黒牧上野B (2010801)	東黒牧字上野山割	研修施設建築	18,910.64	遺跡なし
若竹町(2010684)	悪王寺	駐車場整備	1,141.35	遺跡なし
今市(2010023)	八幡	個人住宅建築	202.66	弥生土坑、不明土坑、不明溝／弥生土器
豊田大塚・中吉 原(2010246)	豊田本町2丁目	個人住宅建築	200	不明ピット／なし
水橋荒町・辻ヶ 堂(2010056)＊	水橋辻ヶ堂	駐車場造成	1,381	自然流路／弥生土器、古代須恵器、江 戸伊万里、江戸越中漬戸、江戸磁器
今市(2010023)＊	八幡	個人住宅建築	202.66	不明土師器
水橋荒町・辻ヶ 堂(2010056)＊	水橋辻ヶ堂	市道水橋辻ヶ堂新道6 号線改良工事	44	遺跡なし
千里D(2010633)	福中町千里	個人住宅建築	967	遺跡なし

令和2年度の総計(4～3月)は146件(うち工事立会＊36件)

2 遺跡地図管理

富山市内の史跡・埋蔵文化財包蔵地の総数は 1,046 ヶ所、総面積は約 72.6 k m²です（令和4年2月末現在）。これは市域 1,241.70 k m²の約 5.8%にあたります。史跡・埋蔵文化財包蔵地は富山市遺跡地図に搭載され、埋蔵文化財センター窓口のほか、インターネットでも閲覧することができます。

(1) 令和3年度の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更等（令和3年3月～令和4年2月）

No.	遺跡名（遺跡番号）	面積（m ² ）	変更内容
1	呉羽山古墳群（2010224）	1,320	工事立会により北東側範囲拡大
2	ちょうちょう塚（2010245）	1,668	見直しにより位置の修正
3	富山城下町遺跡主要部（2011048）	167,836	工事立会により東側範囲拡大
4	富山城下町遺跡主要部（2011048）	147,246	工事立会により範囲見直し
5	稲荷岩跡（2011059）	83,029	研究により新規追加

(2) 遺跡地図のインターネット公開

遺跡地図は富山市ホームページで公開し、史跡・埋蔵文化財包蔵地の範囲、名称・所在地等の概要が閲覧できます。建築・土木工事、各種開発、不動産売買の手続き等の参考にしてください。また、遺跡地図はデータを随時更新していますので、その都度ご確認ください。

閲覧は、富山市ホームページのトップページから、「インフォマップとやま」→「まちづくり情報マップ」→「遺跡地図」の順に進んでください。閲覧にあたっては利用条件をご確認ください。

※URL <http://www2.wagmap.jp/toyama/top/>

3 史跡の保護・管理

(1) 北代縄文広場

①管 理

A 管理運営委託等

a 管理運営

地元の長岡地区自治振興会に広場の管理運営を委託しました。自治振興会が配置した管理人が広場の管理等を行い、富山市北代縄文広場ボランティアの会の会員が管理等の手伝いを行いました。

b 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、各種イベントの開催を見直しました。また昨年度同様、施設内への一度の入館者を北代縄文館展示室は7人程度、復原竪穴住居は4人程度とし、復原高床建物の閉鎖や縄文土器づくり等の体験学習も中止しました。

C 来場者 20万人

平成11年4月29日にオープンした北代縄文広場は、令和3年5月4日に来場者20万人となりました。

d 環境整備

復原竪穴住居の燐し(防虫・湿気対策)、広場の草刈、樹木剪定などは公益社団法人富山市シルバー人材センターに委託しました。この他、機械除草、高木の剪定、広場のシーソー修繕等を行いました。

B 社会に学ぶ「14歳の挑戦」

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

C その他

「第16回越中富山ふるさとチャレンジスタンプラリー」(越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局)に協力しました。 令和3年7月1日～令和3年11月30日



来場者 20万人の表示

②ミニ企画展

テーマ	期間	主な展示品	来場者数	展示解説会
1 追分茶屋遺跡	令和3年7月13日～令和4年1月23日	追分茶屋遺跡出土：縄文土器、土偶、磨製石斧他	3,384人	新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止
2 古沢遺跡	令和4年1月25日～7月10日	古沢遺跡出土：縄文土器、石刀、土偶、雷状土器他	231人 (2月末現在)	同上

③普及行事・講座

A 北代縄文考古楽講座

令和3年11月12日 (長岡公民館)

「立山と縄文人」

講師：久々忠義氏 (富山考古学会副会長) 22人参加

B 夏休み！きただい子ども縄文教室

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

C 文化的秋の縄文土器づくり

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止



北代縄文考古楽講座

④長岡地区等行事

A 長岡地区ふるさとづくり推進協議会

縄文冬まつり（世代間交流行事） 令和4年1月15日

⑤来場者数

年度	個人	団体	合計	土器づくり 体験	縄文グッズ づくり体験	縄文コースター づくり体験
平成31 令和元	7,695人	677人	8,372人	320人	143人	24人
令和2	5,959人	0人	5,959人	新型コロナウイルス感染症防止のため中止	同左	同左
令和3(令和4年2月末現在)	5,565人	366人	5,931人	新型コロナウイルス感染症防止のため中止	同左	同左

(参考) 平成11年4月～令和4年2月末の来場者数累計 205,052人

(2) 安田城跡歴史の広場

①管 理

A 管理等

a 管 理

管理人1人が常駐し、資料館及び広場の管理や来場者への案内等を行いました。

b 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、各種イベントの開催を見直しました。また、昨年度同様、施設内への一度の入館者を安田城跡資料館は15人程度、土壙展示施設は3人程度としました。

C 国史跡指定40周年、来場者30万人

安田城跡は国指定40周年（昭和56年2月23日指定）を迎えるにあたり、安田城跡歴史の広場（平成5年5月13日オープン）は令和3年8月18日に来場者30万人となりました。

d 環境整備

清掃業務及び広場の環境整備（芝刈・樹木剪定・除草・睡蓮間引き）は、公益社団法人富山市シルバー人材センター及び財団法人富山市婦中公園緑地管理公社に委託しました。

この他、資料館出入り口ドアの取替え及び警備機器の再設置、点検口の設置、資料館女子トイレピストンバルブ、資料館木柵の修繕を行いました。

B その他

「第16回越中富山ふるさとチャレンジスタンプラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）に協力しました。 令和3年7月1日～令和3年11月30日



来場者30万人の表示

②ミニ企画展

テーマ	期間	主な展示品	来場者数	展示解説会
1 安田城跡の今昔 いまむかし	令和4年1月 12日 ～7月18日	安田城跡パネル展 (発掘調査・整備の前後等の写真)	605人 (2月末現在)	新型コロナウイルス 感染症の感染防止の ため中止

③普及行事・講座

A 夏休み子ども歴史講座

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

④朝日地区等行事

A 安田城月見の宴

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

⑤来場者数

年度	個人	団体	合計
平成 31・令和元	18,100 人	2,373 人	20,473 人
令和 2	15,782 人	27 人	15,809 人
令和 3(令和 4 年 2 月末現在)	15,997 人	0 人	15,997 人

(参考) 平成 5 年度～令和 4 年 2 月末の累計来場者数 305,121 人

(3) 史跡王塚・千坊山遺跡群

①維持・管理

A 倒木処理・樹木伐採

千坊山遺跡では、倒木等の転落による事故などを未然に防止するためや、積雪のため倒れた樹木の伐採・搬出等を 3 月に行う予定です。

B 除草管理

千坊山遺跡・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・勅使塚古墳（市有地約 60,975 m²）の除草を、公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により実施しました（6～11 月）。

(4) 堀 I 遺跡

①婦中熊野地区行事

A 婦中熊野地区ふるさとづくり推進協議会

令和 4 年婦中熊野地区左義長

令和 4 年 1 月 10 日（月）



婦中熊野地区左義長

(5) 史跡等の巡視及び管理

①文化財パトロール

富山県が委嘱した文化財保護指導委員による定期的な史跡、埋蔵文化財等の巡視。

安田城跡、北代遺跡、王塚・千坊山遺跡群、直坂遺跡、金草第一古窯跡、猪谷関跡、東黒牧上野遺跡、越中丸山焼陶窯跡、堀 I 遺跡、柄谷南遺跡、面白寺跡、五輪塔、中地山城跡及び殿様馬乗石、上滝不動尊境内、題目塔と道標、五輪塔古石塔群、伝畠山重忠墳墓。

②除草・環境整備

公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により、下記の場所での除草や環境整備を実施しました。

堀 I 遺跡（6・7・9 月）、友坂二重不整合（6・8 月）、押上遺跡（10 月）・栗山塚（5・8・10 月）、古沢塚山古墳（7 月）、境野新遺跡（6・9 月）

4 展示・普及

(1) 発掘速報展

①発掘速報展 2021 「弥生から中世のすまい」

会 場：安田城跡資料館

期 間：令和3年7月20日～1月10日

展示 遺跡：上野井田遺跡、友坂遺跡

主な展示品：

【上野井田遺跡】

縄文土器・弥生土器・古式土師器・須恵器・土師器・打製石斧・玉髓製白玉・オニグレミ

【友坂遺跡】

須恵器・中世土師器・珠洲・八尾・青磁・白磁・土錐・輪羽口・砥石・金属製品（鍔・釘・刀子）

入館者数：5,365人



発掘速報展の展示状況

(2) 関係施設の企画展

①富山市考古資料館（民俗民芸村所管）

テーマ	期間	主な展示品・関連行事	来館者数
企画展 「技あり！古の装飾展」	令和3年6月19日 ～11月24日	小竹貝塚出土の装飾品など	2,028人
ミニ企画展 「幻の東京オリンピック (1940) 記念陶磁器展」	令和3年7月22日 ～11月14日	富山城下町遺跡主要部出土「幻の東京 オリンピック」酒盃片 「幻の東京オリンピック」酒盃、注口 容器、湯呑み（個人蔵）	1,163人

(3) 講 座

①富山市民大学（富山市民学習センター主催）

技術の考古学

回	講 師	学習題	開催月日
1	野垣好史主査学芸員	富山市内の鉱山と技術	5月14日
2	鹿島昌也専門学芸員 野垣好史主査学芸員	【現地学習】富山城石垣ツアー	5月28日
3	宮田康之学芸員	技術からみる中世城館 ～つくる・まもる・くらす・たかう～	6月11日
4	鹿島昌也専門学芸員	近世陶磁器の生産 ～越中瀬戸焼・小杉焼・越中丸山焼～	6月25日
5	近藤頤子所長代理	中世鎔物生産の村	7月2日
6	細辻嘉門専門学芸員	発掘調査からわかる土木技術	10月8日
7	納屋内高史学芸員	縄文・弥生時代の「食」の技術	10月22日
8	堀内大介専門学芸員	石の加工技術（石製品・玉） ～旧石器時代から古墳時代まで～	11月5日
9	泉田侑希学芸員	窯業生産の技術 ～須恵器・瓦～	11月19日
10	堀沢祐一所長	木器のつくり方	1月14日

生活文化の歴史（食の文化史）

回	講 師	学習題	開催月日
2	納屋内高史学芸員	縄文時代の食（1）	5月27日
3	堀内大介専門学芸員	縄文時代の食（2）	6月10日
4	細辻嘉門専門学芸員	弥生・古墳期の食文化	6月24日

8	鹿島昌也専門学芸員	近代とやまの食文化 —富山町出土外国産陶磁器にみる西洋文化の受容—	10月 14日
10	納屋内高史学芸員	近代とやまの食文化 —考古資料・文献資料から みた近世富山城・城下町の食文化について—	12月 16日

郷土の歴史

回	講 師	学習題	開催月日
2	堀沢祐一所長	縄文時代竪穴建物の構造 ～出入口と間取りを中心として～	6月 3日

日本の歴史

回	講 師	学習題	開催月日
1	納屋内高史学芸員	縄文時代の食料事情	5月 19日
2	細辻嘉門専門学芸員	弥生時代の食料事情	6月 2日

②市役所出前講座

遺跡からみた富山の歴史

回	講 師	演 題	主催者／会場	参加者数	月 日
1	堀内大介 専門学芸員	新庄城の遺跡と発掘成果	新庄校下自治公民館連絡 協議会／新庄公民館	15	7月 27日

③その他講座

回	講 師	演 題	主催者／会場	月 日
1	堀沢祐一 所長	装身具とまじない	富山市考古資料館／民俗民芸村管理 センター講座室	11月 13日

(4) その他

①マスコミ取材対応

- A 富山新聞「安田城跡と安田城跡資料館について」 宮田学芸員 令和3年4月13日
- B 北日本新聞・富山新聞・NHK富山・富山テレビ「番神山横穴墓群の発掘調査成果」
野垣主査学芸員 令和3年4月15日・16日
- C 読売新聞・富山新聞・朝日新聞「安田城跡の再整備とスイレン」 大野専門学芸員
令和3年5月1日、6月9日、7月20日
- D 朝日新聞「安田城跡の歴史的背景について」 宮田学芸員 令和3年5月28日
- E テレビ朝日「安田城跡歴史の広場のスイレンについて」 宮田学芸員 令和3年6月3日
- F 北日本新聞「安田城跡 スイレン」 土橋管理人 令和3年6月15日
- G 北日本放送「安田城跡の歴史とスイレンについて」 宮田学芸員 令和3年6月23日
- H ニューシー・エー・ピー「安田城跡の歴史について」 宮田学芸員 令和3年6月25日
- I 北日本新聞「ふるさとレガシー」 堀沢所長 令和3年7月14日
- J 富山新聞・北日本新聞・北陸中日新聞・中日新聞(岐阜美濃版)・毎日新聞・テレビ朝日
「幻のオリンピック(1940)記念陶磁器展について」 鹿島専門学芸員
令和3年7月22・23日、7月31日、8月3日、8月17日
- K 北日本新聞「おすすめの自由研究③ 文化財マップ」 堀沢所長 令和3年7月31日
- L 北日本新聞・富山新聞「巨大防空壕について」 鹿島専門学芸員、野垣主査学芸員
令和3年8月31日
- M 富山シティエフエム「越中むかしものがたり 市内の城館遺跡について」
大野専門学芸員、堀内専門学芸員、泉田学芸員 令和3年10月6日～11月24日
- N 北日本新聞「てくてく風土記 富山市朝日地区 ③安田城跡」 大野専門学芸員
令和3年11月12日
- O 北日本新聞「パネル展「安田城跡の今昔へいまむかし～」について」
堀内専門学芸員、大野専門学芸員 令和4年1月14日

P 北日本新聞・富山新聞・毎日新聞・北陸中日新聞・読売新聞・富山テレビ

「渋沢栄一ゆかりの煉瓦について」 堀沢所長・鹿島専門学芸員

令和4年1月28・29日、2月6日

Q 北日本新聞「安田城跡歴史の広場のスイレンについて」 大野専門学芸員 令和4年2月25日

②とやまお城探検隊（北日本新聞） 令和3年4月1日～令和4年3月31日

堀沢所長、鹿島専門学芸員、堀内専門学芸員、野垣主査学芸員、泉田学芸員、宮田学芸員

5 刊行物

（1）発掘調査報告書

No.104 富山市上野井田遺跡発掘調査報告書（2021.5）

No.105 富山市横越遺跡発掘調査報告書（2021.11）

No.106 富山市番神山横穴墓群・吳羽山古墳群発掘調査報告書（2022.1）

No.107 富山市明神山遺跡発掘調査報告書（2022.3）

（2）PR誌・展示図録等

『富山市の遺跡物語』No.23 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報（2022.3）

『北代縄文通信』第50号（2022.3）

6 活用

（1）出土品貸出

	貸出先	展示名	展示期間	資料名
1	富山市陶芸館	企画展「出あいから生まれたうつわたち」	R3.9.17 ～R3.11.28	水橋金広・中馬場遺跡、 富山城下町遺跡主要部出土 の遺物 7点
2	富山市郷土博物館	常設展「各地の中世城館出土品 頤海寺城」	R3.2.6 ～R4.2.6	頤海寺城跡出土の遺物 10点、写真2点

（2）写真等資料掲載

①富山城跡の試掘調査・遺物の写真3点 WEBサイト『城びと』に掲載

②南部I遺跡出土S字状口縁台付甕の写真1点 『考古遺跡が明かす神武東征』（令和4年刊行予定）

③安田城跡全景写真1点 検索アプリ「my route」に掲載

④北代遺跡出土岩版写真1点 須坂市立博物館リニューアルオープン記念特別展で展示

⑤上野井田遺跡出土弥生土器写真1点 令和3年度市町村連携発掘速報展ポスター・チラシに使用

（3）資料調査・見学等

①令和元年12月25日～令和4年3月31日

東京大学総合研究博物館 宮田佳樹氏 小竹貝塚出土縄文土器

②令和3年5月19日、令和4年1月27日

朝日新聞社 宮代栄一氏 番神山横穴墓群・百塚遺跡出土馬具

③令和3年6月10日～11日

富山大学 関杏介氏 吉岡遺跡出土縄文土器

④令和3年10月15日

富山大学 水島りさ子氏 鏡坂I遺跡・北代遺跡・開ヶ丘狐谷III遺跡出土有孔鍔付土器

- ⑤令和3年11月9日～令和4年3月31日
新潟大学 青木要祐氏 向野池遺跡出土黒曜石製石器
- ⑥令和3年11月11日
久保田正寿氏 鏡坂I遺跡出土石錘・凹石・磨石
- ⑦令和3年12月10日
富山大学 松浦悠太氏 池多南遺跡・鏡坂I遺跡・開ヶ丘狐谷III遺跡出土土偶

7 調査研究

(1) 調査協力・共同研究

①石川県金沢城調査研究所

- 令和3年11月25日 第1回金沢城関連城郭等情報連絡会 「金沢城跡(二ノ丸御殿)発掘調査」の見学 野垣好史主査学芸員
令和4年2月28日 第2回金沢城関連城郭等情報連絡会 報告「史跡七尾城跡の調査と整備・活用について」の聴講 野垣好史主査学芸員

②吳羽山観光協会

- 令和3年9月13日、10月6・11・29日 七面堂模型展示準備委員会 野垣好史主査学芸員
③公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課
- 令和4年1月21日、3月9日 南太閤山I遺跡整理作業指導 納屋内高史学芸員

(2) 論文・報告・紹介 富山市内の遺跡に関連するものを含む

①関係職員等

- 小黒智久 2021.3「富山県高岡市桜谷古墳群の前期古墳の再検討」『富山市考古資料館紀要』第40号
富山市考古資料館
- 小黒智久 2022.3「羽柴秀吉による中世富山城の破却について—富山城にかかる考古学的調査所見の再検討—」
『富山市民俗民芸村 村報 民村 vol.8』富山市民俗民芸村
- 小黒智久 2022.3 「東京国立博物館所蔵『越後国中頃城郡湯町大字湯町小字卷出土』銅鏡の研究」
『新潟考古』第33号 新潟県考古学会
- 鹿島昌也 2021.5「富山市百塚住吉D遺跡の厩舎(馬小屋)遺構」『馬と古代社会』八木書店
- 鹿島昌也 2021.7「富山県地方史研究の動向」『信濃』第73巻第7号 信濃考古学会
- 鹿島昌也・納屋内高史 2022.3「大利屋敷遺跡の出土品について」『富山市の遺跡物語』No.23
富山市埋蔵文化財センター
- 鹿島昌也・坂田志穂 2022.3「越中丸山焼鉄印・窯印・文様」『富山市の遺跡物語』No.23
富山市埋蔵文化財センター
- 泉田侑希 2021.7「遺跡速報 富山県富山市杉谷古墳群」『考古学ジャーナル』No.756 ニューサイエンス社
- 納屋内高史 2021.3「出土動物遺存体から見た中世越中の食文化」『近世富山における水産資源の利用
—令和2年度「高志プロジェクト」助成研究報告書』 加賀藩食文化研究会
- 藤田富士夫 2021.7「村椿校区 八百比丘尼伝説」『黒部奇譚』黒部市歴史民俗資料館
- 藤田富士夫 2021.8「神奈備山の二様態について—三輪山と岡寺山ー」『明日香』第43号
明日香村文化協会
- 藤田富士夫 2021.9「堂之上遺跡の縄文ランドスケープについて—附・飛驒一宮水無神社の冬至日の出ー」
『斐太紀』第27号 飛驒学の会
- 藤田富士夫 2022.3「(講演錄)栗山コレクション等寄贈資料の講演録」『富山市考古資料館紀要』第41号
富山市考古資料館
- 古川知明 2021.9「続・日本海域の下呂石 最新の発掘調査から」『斐太紀』第27号 飛驒学の会

- 古川知明 2021.9「近世・近代越中富山石工石造物の飛騨北領への流入」『斐太紀』第27号 飛彈学の会
細辻嘉門 2022.3「富山市内出土の天王山系土器について」『富山市考古資料館紀要』第41号
富山市考古資料館
堀沢祐一 2022.3「土製耳飾考」『富山市のお遺物語』No.23 富山市埋蔵文化財センター
横田清隆・伊藤睦憲・藤田富士夫 2021.3「千葉県栗島台遺跡採集の玉類について」『玉文化研究』第5号
日本玉文化学会

②市内遺跡を取り扱ったもの

- 朝田亜紀子 2021.6「小竹貝塚の編物復元」『埋文とやま』VOL.155
荒井秀規 2021.3「(講演録) 北陸の人面墨書土器と東国の人面墨書土器」『富山市考古資料館紀要』第40号
富山市考古資料館
安念幹倫 2021.3「試掘調査の成果ー富山市内のほ場整備事業の前 5 遺跡を調査ー」『埋文とやま』VOL.154
福村修・不破光大 2021.3「縄文時代のお魚事情」『埋文とやま』VOL.154
内田均 2022.2「石積編②富山の石(1) 富山城の石垣」『庭 NIWA』246 2022春
越前慎子・町田賢一「南太閤山I 遺跡出土漆塗りクルミ垂飾の製作方法 ークルミ割り実験ー」
『令和2年度埋蔵文化財年報』公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課
高岡徹 2022.3「越中南部の飛彈口・舟倉をめぐる戦国史の様相ー梅尾城と武将達の動向を中心にー」
『富山市考古資料館紀要』第41号 富山市考古資料館
高木好美 2022.3「吳羽丘陵のやきものー長岡窯と針原粘土をめぐってー」『富山市民俗民芸村 村報
民村 vol.8』 富山市民俗民芸村
畠山智史 2021.3「近世金沢の料理書にみられる近世富山の食材」『近世富山における水産資源の利用
ー令和2年度「高志プロジェクト」助成研究報告書』加賀藩食文化研究会
町田賢一・佐々木由香 2020.6「中曾根遺跡出土種実压实痕土器」『令和元年度埋蔵文化財年報』
公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課
町田賢一 2021.6「北陸地方における縄文時代前期前半のありかた」『令和2年度埋蔵文化財年報』
公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課
町田賢一 2021.11「16 富山県」『日本考古学年報』73 日本考古学協会
松嶋隆徳 2021.6「企画展「見て、知って！とやまヒストリー2021」」『埋文とやま』VOL.155
麻柄一志 2021.9「下呂石に恋する縄文人 ー富山平野における下呂石製石器の分布ー」『斐太紀』第27号
飛彈学の会

③報告書など

- 加賀藩食文化研究会 2021.3『近世富山における水産資源の利用 ー令和2年度「高志プロジェクト」助成
研究報告書』
公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課 2021.3『水橋池田館遺跡 水橋池田館II遺跡 水橋中
村遺跡発掘調査報告』
富山県埋蔵文化財センター 2021.3『県営農地整備事業上条中部地区埋蔵文化財試掘調査報告』
富山県埋蔵文化財センター 2021.3~2021.12「小竹貝塚出土品」『埋文とやま』VOL.154~157
富山県埋蔵文化財センター 2021.10「令和3年度特別展図録 珠・玉・珠 私たちを魅了する たま とは』
富山考古学会 2021.3「越中の小金剛仏 ー鉄仏・懸仏を含む富山県所在・所縁遺品の調査報告」
『大境』第39・40号合併号
富山大学人文学部考古学研究室 2021.3『杉谷1番塚古墳 ー第2次調査報告書ー』

（3）講演・研究発表 富山市内の遺跡に関するものを含む

高柳由紀子「令和3年度 小竹貝塚研究プロジェクトの成果の報告」令和3年度県民考古学講座

令和4年2月20日

納屋内高史「骨資料の分析による金沢市新保本町チカモリ遺跡の再検討」令和3年4月24日

畠山智史「近世富山における水産資源の利用」高志プロジェクト令和2年度認定計画研究成果発表会

令和3年12月5日

町田賢一「掘ってわかった縄文人の素顔」富山大手町ロータリークラブ例会 令和3年12月20日

8 研修等参加

（1）令和3年度文化財担当者専門研修「遺跡調査技術課程」

泉田学芸員 奈良文化財研究所 令和3年9月27日～10月1日

（2）令和3年度文化財行政講座

泉田学芸員 文化庁オンライン配信 令和3年11月8日～11月10日

（3）富山城跡・城下町遺跡出土品の資料調査

鹿島専門学芸員 品川区立品川歴史館・台東生涯学習センター

令和3年11月24・25日

（4）令和3年度埋蔵文化財発掘調査専門職員等研究会

新型コロナ蔓延防止のため延期（日程未定）

9 組織・事業費

（1）組織



（2）事業費（令和3年度当初）

①埋蔵文化財調査事業費	29,798 千円
（内訳）埋蔵文化財調査費	14,093 千円
普及事業費	246 千円
施設管理事務費	15,459 千円
②文化財保護事業費	22,510 千円
（内訳）文化財保護事業費	6,652 千円
施設管理事務費	15,858 千円
③一般管理事務費	88,684 千円

堀沢 純一
縄文文化センター所長

はじめに

富山県内の縄文遺跡から出土している「土製耳飾」(以下、「耳飾」)は、現在のところ、34 遺跡から 142 点が報告されている(図 1・表 1)。

出土遺跡は県内に幅広く分布しており、朝日町境 A 遺跡(中期～晩期)からは県内最多の 27 点が出土している。

時期別では、早期末～前期初頭が 1 点、前期が 5 点、前期末～中期初頭が 2 点、中期が 36 点、中期末～後期初頭が 8 点、後期が 15 点、後～晩期が 53 点、晩期が 10 点、時期不明が 12 点である。

今回の報告では、耳飾 142 点のうち、ある程度時期が比定でき、耳飾の直径が推定できる 116 点を対象として、各時期の様相や特徴について考察してみたい。

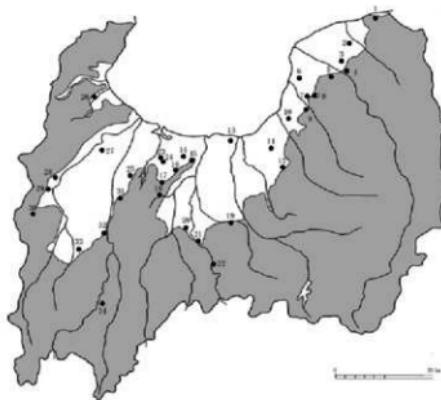


図 1 土製耳飾出土遺跡位置図(番号は表 1 と対応する)

No.	遺跡名	所在地	田町村系	縄文時代の遺跡の分布				耳飾の時期	直径の 平均 値	No.	遺跡名	所在地	田町村系	縄文時代の遺跡の分布				耳飾の時期	直径の 平均 値
				早	前	中	後							早	前	中	後		
1	境A	朝日町						27.18	御坂I	高山市	神明町							4	
2	柳田	高岡市						3.19	黒瀬牧上野	高山市	大山町							1	
3	愛本新	高岡市	平野方面					3.20	長山	高山市	八幡町							1	
4	鶴屋	高岡市	宇佐方面					1.21	春日(田原津)	高山市	大門町							1	
5	蒲山今藏	高岡市	平野方面					2.22	布尻	高山市	太田町							2	
6	田家	高岡市						2.23	野瀬西	射水市	小川町							1	
7	天神	魚津市						2.24	黒河・中老田	射水市	小川町							1	
8	榎神	高岡市						1.25	田代新	射水市	木戸町							3	
9	石塚	高岡市						6.26	上久津呂中屋	氷見市								5	
10	早月上野	高岡市						10.27	石塚	高岡市								1	
11	本江	高岡市						11.28	桜町	小矢部市								14	
12	修業寺	上石町						2.29	猪生上野	小矢部市								4	
13	野田・平曽	高岡市						9.30	臼谷岡ノ城	小矢部市								1	
14	野田・貝塚	高岡市						5.31	義照寺	射水市	三日町							3	
15	北代	高岡市						4.32	松原	射水市	三日町							5	
16	吉沢	高岡市						1.33	井口	南砺市	中村							1	
17	開ヶ丘銀谷	高岡市						3.34	東中江	南砺市	中村							2	
合計																			
142																			

表 1 土製耳飾出土遺跡別点数等一覧(No.は図 1 と対応する) 縄文時代の遺跡の長さは主に検出遺跡の時期による。

1 縄文時代早期～中期初頭の耳飾(図 2)

この時期の耳飾は、3 遺跡から 8 点が確認されている。耳飾の形態は、「尖底状耳飾⁽¹⁾」と呼ばれるタイプ(図 2 の 1)、滑車形(図 2 の 2～5)、土製の玦状耳飾(図 2 の 6～8)がある。

尖底状耳飾は、上久津呂中屋遺跡の貝塚(早期後葉～中期末)から出土しており、時期は早期末～前期初頭である。外径 2.1 cm、内径 1.2 cm、幅 1.8 cm⁽²⁾、くびれ部は 1.0 cm、重さ 4.25 g で、細かく刺突を前面や側面に施している。東海地方の影響によるものと指摘される⁽³⁾。県内では最も古い耳飾である。

滑車形の耳飾は 4 点で、すべて小竹貝塚の出土である。おのおのの時期、出土位置については、図 2 の 2 は前期中葉～後葉、図 2 の 3 は前期後葉、図 2 の 4 は前期後葉～末葉、図 2 の 5 は前期末葉で、3 は貝塚からの出土で、その他は遺物包含層である。直径は 1.1～1.9 cm で、幅 1.5～2.6 cm、重さ 1.44～10.27 g で、平均 4.8 g である。中央に孔を持つ場合とない場合がある。4 は外径 1.6 cm、幅 1.0 cm で、形態は前述

した図2の1に類似するとも考えられる。

土製の块状耳飾は3点あり、図2の6と7は極楽寺遺跡出土で、時期は前期末～中期初頭である。6は竪穴建物からの出土で、直径は3cm、最大厚9mmである。7は前述した竪穴建物周辺から出土し、径3.5cm、最大厚1.3cmである。ともに赤彩が施される。図2の8は小竹貝塚の出土である。推定径は約5cm、幅は1.2cmである。ちなみに、土製块状耳飾は、上久津呂中屋遺跡の谷(早期後半～後期前葉)からも1点出土しており、推定直径2.2cm、断面は三角形で最も厚いところで8mmである。時期は中期～後期と報告されている。

この時期の特徴は、中期や後、晚期と比較して出土遺跡数や点数は少ない。限られた資料ではあるが、滑車形とした耳飾は、直径に対して、幅が同じか、1.3～1.6倍と長く鼓状タイプである。直径は1cm台の小型のものが多く、文様と赤彩はない。中央部に孔を持つ場合もあり、孔の径は3～5mmである。

石製の块状耳飾が流行する時期にそれを模した土製品が存在することもこの時期の特徴と考えられる。表2は小竹貝塚から出土した耳飾の材質による比較表であるが、材質はほぼ石を用いていることを示している。



図2 繩文時代早期～中期初頭の土製耳飾 (1:2)

時期	土製品	石製品
前期中～後葉	1	43
前期後葉	5	116
前期末	3	47
計	9	206

表2 小竹貝塚出土耳飾の材質比較表

(石製品は全て块状耳飾、各時期の点数は報告書の本文による)

2 繩文時代中期～後期初頭の耳飾 (図3)

この時期の耳飾は20遺跡から42点出土しており、時期比定ができる県内出土耳飾の約32%を占めている。このうち19遺跡から出土した39点を取り上げる。耳飾の形態は、ほぼ滑車形(図3の1～12、16～22、24～30、32～39)であると考えており、外径と内径にかなり差のあるタイプも含めている。ほぼ中央に孔がある場合とない場合がある。また、図3の14、15、31のように漏斗形の耳飾(桶口分類B1)^⑩もある。図3には縮尺が不明瞭のため掲載できなかったが、同形態の耳飾は串田新遺跡に1点ある。さらに、報告書では「鼓形」されている図3の13、図3の23のようなキノコ形といった変わった形態も存在する。

外径と内径に差のあるタイプは、図3の1、7、12、21、29、34である。1は針原西遺跡の耳飾である。外径4.7cm、内径3.5cm、幅2.8cm、重さ32gで、この時期の耳飾では直径、幅ともに最大である。同様の耳飾(図3の7)は、南側に隣接する黒河・中老田遺跡の溝からも出土しており、ともに時期は中期後葉から後期初頭と考えられる。12は鏡坂I遺跡の耳飾(中期中葉)であるが、外径3.1cm、内径2cm、幅3.4cmで、孔はない。20と29は厳照寺遺跡の耳飾(中期前葉)で、竪穴建物が穴からの出土と記載されている。34は浦山寺遺跡の耳飾で、外径1.9cm、内径9mmになり、直径2mm程度の孔がある。

次に、外径と内径がほぼ同じタイプについてである。図3の2と3は北代遺跡の出土で、直径はともに4cmで、幅は2が1.3cm、3が1.4cmと、ほぼ同規格で、赤彩が施され、2個1対なのだろうか。時期は、中期後葉と考えられ、現在のところ中期では最大径に属する。図3の4～6、8～11は、直径が3cm台ですべて孔を持ち、その直径は0.9～1.5cmである。5は長山遺跡の耳飾で、幅2cmで、墓壙の可能性が指摘されている構造から出土している。8は天神山遺跡の耳飾で、幅は最も広いところで約1cm、中央部では約6mmである。赤彩が施される。

図3の16～20と24～28、30は直径2cm台である。18と19は開ヶ丘孤谷III遺跡の耳飾で、中期前葉の竪穴建物内のピットから出土している。ともに直径2.8cmで、幅と重さは18が2.1cmと15g、19が2.3cmと18gと若干差があるが、形状と規格がほぼ同一であることから、一対の使用が指摘されている。20は厳照寺遺跡で孔を持つタイプ(中期前葉)。22は古沢遺跡出土(中期中葉)。直径2.8cm、幅4cmで、両端を約1cm凹ませている。30は松原遺跡の土坑から出土した。幅は1.9cmである。

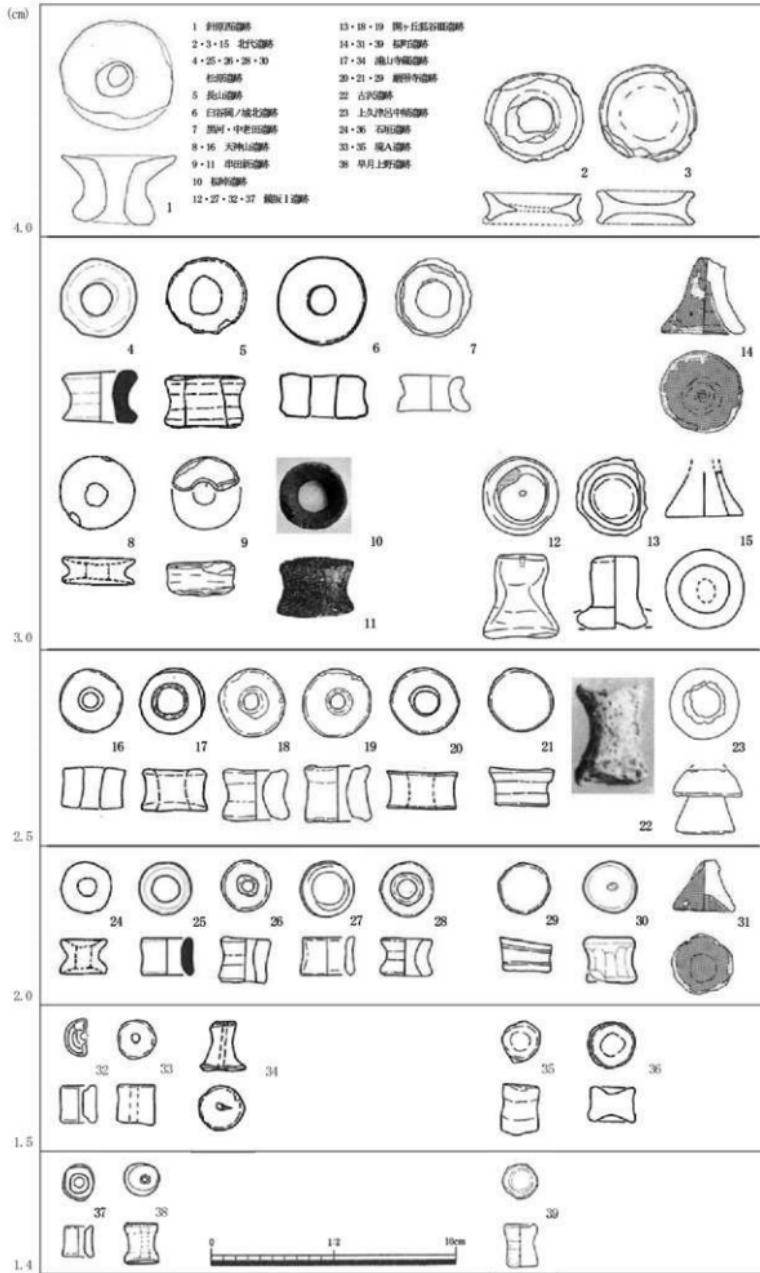


図3 純文時代中期～後期初頭の土製耳飾 (1:2)

図3の32、33、35～39は直径1cm台で、孔があるタイプとないタイプがある。36は石垣遺跡の耳飾(直径1.9cm、幅1.4cm)を除き、直径と幅のサイズがほぼ同じか、幅の方が長く、前期の耳飾に形態が類似する。37は鏡坂I遺跡の耳飾(中期中葉)で、現在のところ最小の耳飾である。35は境A遺跡の穴から、39は桜町遺跡の貯蔵穴(SK24)とされる土坑から出土している。中期末～後期初頭で、重さは3.3gである。

漏斗形は、図3の14、15、31の3点である。14と31は桜町遺跡の耳飾(中期末～後期初頭)で、ともに内外面赤彩が施され、重さは14が11.9g、31が5.2gである。14は土器つまりからの出土で、31は前述した39と同構造である。15は北代遺跡で中期後葉の堅穴建物からの出土である。

「鼓形」とする図3の13は開ヶ丘孤谷III遺跡の堅穴建物(中期中葉)からの出土。最大径2.8cm以上、幅3cmで、赤彩の痕跡が残る。キノコ形(図3の23)は、上久津呂中屋遺跡の谷からの出土で、最大径2.9cm、幅2.6cmである。表面は丸く抉られており、この部分に何か別素材をはめ込み装飾を行っていた可能性が指摘されている。全面赤塗で重さ14.63gである。時期は中期後葉。

この時期の特徴は、出土する遺跡は20カ所あり、前期や後晩期と比較して多い。ただし、1遺跡からは、1～2点出土するケースが多く、最多でも1遺跡5点である。形態はほとんどが滑車形で、直径は最大で4.7cm、最小で1.4cmである。文様はなく、赤彩を施す場合がある。中央に孔を設けるタイプもある。また、漏斗形やキノコ形が存在し、この両者は中期後葉～後期初頭の特徴なのであら。

北代、開ヶ丘孤谷III、桜町、松原、嚴照寺遺跡といった複数点の耳飾が出土する遺跡では、その形態が似ており、一对での使用や遺跡内で作製しているとすれば、ある程度のルールが存在したと思われる。

3 繩文時代後期～晩期の耳飾(図4・5)

この時期の耳飾は12遺跡から78点が出土しており、時期比定ができる県内出土耳飾の60%を占めている。このうち69点を分析の対象とする。耳飾の形態は、ほぼ滑車形(図4の1～22、図5の1～44)で、そのうち環状タイプが40点、中実タイプが19点、ブリッジタイプ^四が7点の3タイプがある。なお、図4の23～25のように突起が付いたり、棒状のものがある。

環状タイプは、図4の1～11、13～17、図5の1～15、23～26、28～32が該当する。図4の1と2は本江遺跡で、時期は後期末～晩期直前、後期後半とされる。ともに直径8cmで、現在のところ最大径の耳飾となる。幅は1が2.3cm、2が2.2cmで、赤彩が残り、刺突と弧線によって文様を施している。図4の3と4は直径7cm台、幅1.5cmで、3は境A遺跡で無文、4は桜町遺跡で三叉文が施され、時期は後期末～晩期前葉。図4の5～11は直径6cm台で、幅は1.5～2.3cm、10以外すべて文様がある。5と8は三叉文、5は桜町遺跡で時期は図4の4と同じである。6は玉抱三叉文風、6と8は早月上野遺跡の土坑からの出土で、8の出土構造は土壙墓とされる。7と9の文様は沈線文と刺突文で、赤彩が残る。ともに本江遺跡である。

図4の13～17、図5の1～9は直径5cm台、点数は14点と最も多い。図4の14と図5の5、7、9以外は文様がある。図4の13、14、17、図5の4、5は境A遺跡の耳飾で、17は晩期前葉、4は晩期中葉である。図4の15は田家遺跡の晩期の耳飾、直径5.9cm、幅1.9cm、ほぼ完成品で重さ43.7gである。中央には直径2.3cmの孔があり、最も薄いところは厚さ6mmである。文様は透かしいりの入組文。図5の1と2は早月上野遺跡の出土で、2は幅2cm、内側に梢円工字文がある。図5の3は布尻遺跡の晩期前葉の耳飾で、幅1.9cm、表裏に沈線による文様がある。表面は連結玉抱三叉文である。図5の6～9は本江遺跡出土で、9は幅が3cmになり、このタイプで最も幅が厚い。内側に突起のようなものが見える。後期後半。

図5の10～15は、直径4cm台である。10と15は境A遺跡の耳飾である。11は本江遺跡で刻みによる施文がなされ、図5の6と8と類似する。幅2cmである。12～14は野田・平榎遺跡の土器捨て場から出土した。12は瘤状の突起が付きその間にX状の沈線がある。赤彩が施され、幅1.9cmである。13と14は沈線と列点により施文し、14は赤彩がある。15は幅2.1cmで、玉抱三叉文が施文され、晩期中葉である。

図5の23～26は、直径3cm台で、24以外に文様がある。23は風野遺跡の耳飾。幅1cmで、瘤状の突起があり、沈線文と列点文の文様がみられる。24～26は境A遺跡の耳飾。25は晩期前葉。26は両面に文様がある。沈線によって、十字形状、弧線文、同心円状の文様が施され、時期は後期後葉である。図5の28～32は直径2cm台、幅は1.8～2.4cm、すべて文様はない。28は野田・平榎遺跡で重さ6g。29は早月上

野遺跡の堅穴建物からの出土である。30～32 境A 遺跡、30 は幅 1.6 cm、重さ 6.5 g、32 は幅 1.8 cm、重さ 13.8 g である。平均重量は 8.7 g となる。2 cm台の耳飾は、中期の耳飾に類似する形態である。

中実タイプは、図 4 の 18～20、図 5 の 16～19、27、33～39、41～44 である。図 4 の 18 は柳田遺跡の耳飾で、中央に直径 3 mm の孔があり、二重の同心円の中に渦巻文が施される。図 4 の 19 は表裏とも同じ文様を施す。中央部に浅い掘り込みによって十字形を施し、U 字状の沈線と列点により文様を描く。幅は厚いところで 1.1 cm、中央部では 6 mm になる。赤彩が施される。図 4 の 20 は石垣遺跡の耳飾。両面とも同様の文様である。外端には二重の列点文を施し、中央部は沈線で二重に囲った中に列点文を施す。幅は厚いところで 1.4 cm、中央部で 8 mm、重さは 46.9 g である。図 5 の 16 は野田・平復遺跡。外縁に幅約 1 cm の段を持ち、列点文がある。図 5 の 17 は本江遺跡の耳飾。幅 2 cm、両面に同様の文様がある。三重の同心円があり、その間と外側に列点文を行う。赤彩が施され、時期は後期後半である。図 5 の 19 は布尻遺跡の後期の耳飾で遺物包含層からの出土である。幅 1.7 cm、重さ 31 g、表面には弧線文と列点文で文様が描かれ、裏面にはボタン状の突起があり、十字の刻みが施される。表裏で文様が違う。図 5 の 27 は早月上野遺跡の耳飾。幅 1.4 cm で、工字文をモチーフとして、4 単位が施され、中央に突起が付く。赤彩が施される。

図 5 の 33～39 は、直径 2 cm 台である。33 は桜町遺跡の無文の耳飾で、重さ 7 g、時期は後期末～晩期前葉である。34 と 35 は境 A 遺跡。34 は幅 1.5 cm、重さ 8.3 g、中央に突起と表面端部に刻みがある。35 は沈線により、円や十字を表現している。9.8 g。36 は野田・平復遺跡で、外径と内径にやや差があり、表面には沈線で何かか表現されている。重さ 9 g。38 は境 A 遺跡の耳飾。幅 1.8 cm、重さ 5.3 g で先端は丸くなる。39 は桜町遺跡の鼓状になる耳飾で、完形ではないが、現状で重さ 10 g。上記 33 と時期は同じ。

図 5 の 41～44 は直径 1 cm 台の耳飾。41 は境 A 遺跡で、直径 1.3 cm、幅 1 cm、重さ 1.2 g。後晩期の最小の耳飾である。42 は早月上野遺跡で、堅穴建物からの出土である。43、44 は桜町遺跡の耳飾で鼓状である。前述した図 5 の 39 と同様のタイプで、前期や中期にもみられる。重さは 43 が 3 g、44 が 6 g である。

ブリッジタイプは、図 4 の 12、21、22、図 5 の 20～22、40 が該当する。図 4 の 12 は柳田遺跡の耳飾で、二等辺三角形状の透かしや沈線があり、幅 2 cm で後晩期頃とされる。図 4 の 21 は野田・平復遺跡の排土から出土した。表面端部には刻みがあり、中央部には十字形、工字文などが施され赤彩が残る。厚さは最大 1.8 cm、中央部で 7 mm、重さ 22 g である。図 4 の 22 は本江遺跡からの出土。幅 1.8 cm で、直径 6 mm 程度の孔や低い円状の瘤がみられるが、全体の装飾は不明である。裏面には沈線が 1 条引かれていると報告され、赤彩が施される。時期は後期後半。図 5 の 20～22 は表面端部付近に列点文や刻みが施されるが、全体の文様はよくわからない。20 と 21 は境 A 遺跡で 20 は晩期中葉。22 は野田・平復遺跡からの出土。図 5 の 40 は境 A 遺跡の耳飾、直径 2.5 cm、幅 1.7 cm、重さ 9.6 g で、工字文がモチーフで 2 単位が施される。

図 4 の 23 と 24 は桜町遺跡出土。棒状形で両端が片端に瘤が付く。23 は最大径 9 mm で、幅 2 cm、重さ 1.4 g、24 は最大径 6 mm で、幅 1.8 cm、重さ 0.4 g である。時期は後晩期から晩期前葉である。25 は早月上野遺跡の耳飾。報告書には「臼形耳飾」と呼称される（中略）充填された円盤状のもの（中略）くびれを持ち、下部が広がる形状」と記載される。外径と内径の差がある滑車形の耳飾であろうか。中期中葉～後葉の堅穴建物からの出土である。

この時期の最大の特徴は、中期に比べて大型品が目立つ点と、表面もしくは両面等に文様を付ける点である。直径は最大で 8 cm で、最小は直径 1.3 cm である。大型の耳飾がつくられるその一方で、2 cm 台の耳飾も 13 点と多い。境 A や早月上野、本江、野田・平復、桜町遺跡にみられるように、1 遺跡からの出土点数が多く、境 A 遺跡では 25 点、本江遺跡と桜町遺跡では 11 点確認されている。このように複数点出土する遺跡の耳飾では、同一の文様は認められないが、文様のモチーフが類似する事例もあり、遺跡内でのルールがあると考えられる。また、田家、石垣、野田・平復遺跡のように、優れた文様の耳飾の存在もこの時期の特徴である。

4 まとめ

このように、富山県内の縄文の土製耳飾について概観してきた。県内最も古い事例は、上久津呂中屋遺跡の早期末から前期初頭の耳飾である。その後、前期、中期、後期、晩期にわたり、耳飾が出土している。

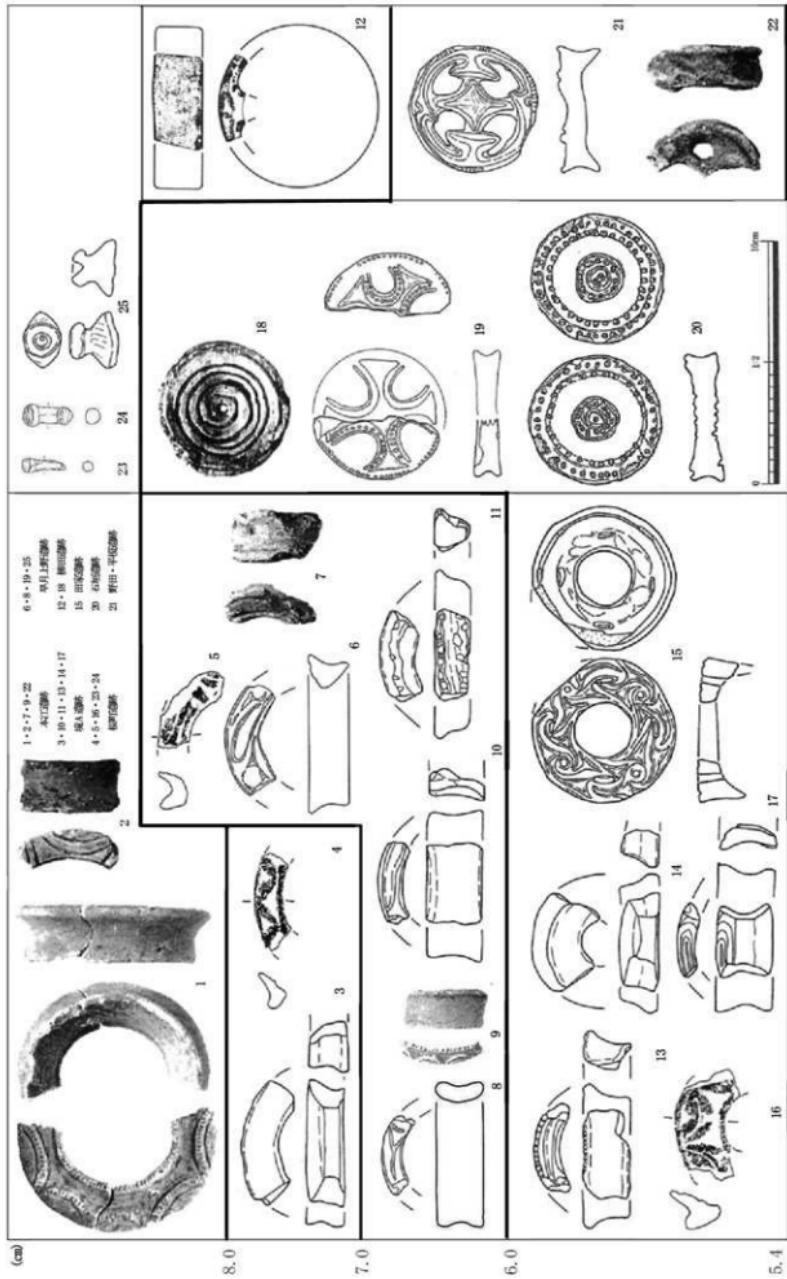


図4 繩文時代後期～飛鳥時代の土製耳飾(1) (1:2)

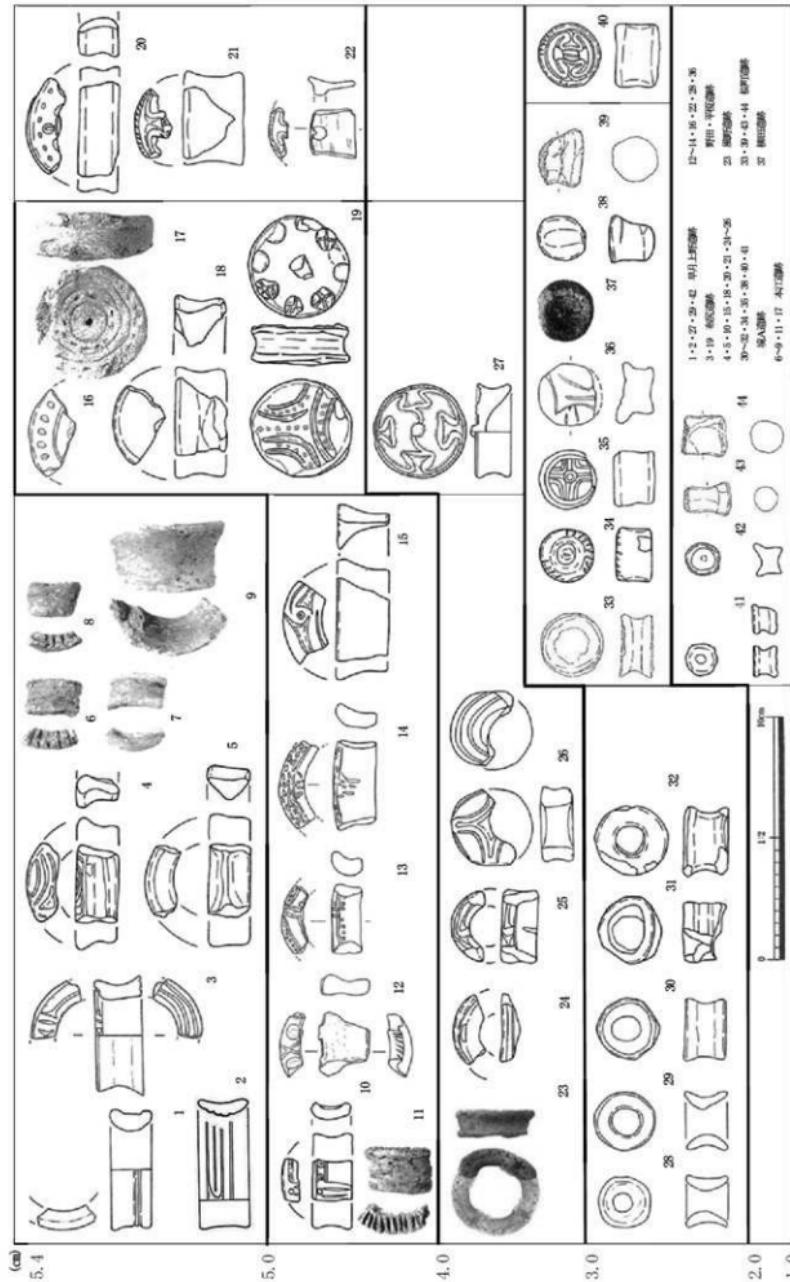


図5 繩文時代後期～晩期の土製耳飾 (2) (1 : 2)



**図6 風野遺跡
の耳飾を付け
た土偶 (1:2)**

耳飾の総数は142点で分析対象とした116点の時期別内訳は、縄文早期末～中期初頭が8点、中期～後期初頭が39点、後期～晩期が78点で、後期～晩期の耳飾が約6割を占めており、東日本地域における耳飾の出土が後期から晩期にかけて増加する傾向と一致している。出土遺構は、竪穴建物、土坑、穴、溝、廐棄場、遺物包含層などであるが、遺構と耳飾の関係を示す事例ではなく、装着を示す事例もない。

ただ、耳飾を装着した様子を示す土偶が風野遺跡から出土しており(図6)、本江や東黒牧上野遺跡でも土偶の耳に孔が付けられ、耳飾を表現したと考えられる。

耳飾の形態は、前期から晩期までを通して、基本的に滑車形と考えている。前述したように滑車形は前期段階からみられ、直径と幅が同じかしくは長くなる鼓状を呈しており、直径1cm台の小型品である。土製の块状耳飾は赤彩される例もあるが、滑車形の耳飾は赤彩ではなく、孔を持つ例がある。

中期になると直径2cm台が最も多く、前期よりもや大きくなり、直径4cm台の耳飾もある。中期の耳飾には文様ではなく、赤彩する場合や有孔の場合があり、赤彩率は2割弱で特定の遺跡に限られる可能性がある。有孔の割合は67%である。直径1cm台の小型品は前期の様相を示す。また、北代遺跡の滑車形耳飾は後代につながるような形態である。また漏斗形の耳飾は中期後葉～後期前葉にかけてのみである。

後期・晩期になると、前期や中期と比較して大型化する。直径は最大で8cm台で、中期段階の最大径4cm以上の耳飾は44点を数え、66%を占めており、5cm台の点数が最多となる。幅は1.5～2.0cm台が多く、3.0cmのものも1点ある。中期の様相に近い直径2cm台も13点あり、数量的には多い。

また、この時期から耳飾に文様が施される。文様の有無については、環状タイプは直径3cm以上の耳飾にはほとんど文様が施され、約8割にあたる。中実タイプは直径2cm以上の耳飾に施される。ブリッジタイプはすべて文様がある。赤彩は、本江、早月上野、野田・平瀬遺跡など特定の遺跡に集中する傾向があり、中期と同様である。文様のモチーフであるが、環状タイプは三叉文や玉抱三叉文、列点文、弧線文、入組文などみられる。中実タイプは列点文や十字形、ブリッジタイプは工字文が主体であろうか。三叉文や工字文、十字形のように遺跡間で共通する文様もあれば、野田・平瀬、本江遺跡のように遺跡内での共通文様もある。最後になるが、例えば工字文の耳飾は新潟県龍峰遺跡や群馬県茅野遺跡でも出土しており、他地域の様相との比較も必要である。このことを踏まながら県内の耳飾について再検討したい。

注

- 公益財团法人富山県文化振興開拓整理文化財調査事務所 2013「上久良呂中島遺跡発掘調査報告書」、「尖底狀耳飾」について。伊藤正人 2005「耳飾三題～愛知県出土の縄文時代耳飾～」『考古学フォーラム18』考古学フォーラム。
- 土器の块状耳飾以外は、耳飾の大きさについてでは、耳飾を横置きにして、耳たぶに孔をあけ装着していることが想定できるように直径と幅(奥行)の数値を記載した。
- 公益財团法人富山県文化振興開拓整理文化財調査事務所 2013「上久良呂中島遺跡発掘調査報告書」
- 種口清之 1941「滑車形耳飾」『考古学年譜第4編』 東京考古学会
- 設楽博之 1996「土製耳飾」『韓文化の研究9 韓人の精神世界』

主な文献

- 朝日新聞社編 2005「富山市街町の古墳群と古墳公園告白書」
 無断開墳委員会 1971「魚津市石高原町新開墳御用古墳」
 無断開墳委員会 1973「魚津市石高原町新開墳御用古墳報告書」
 無断開墳委員会 1981「富山県魚津市石高原町の新開墳」
 無断開墳委員会 1986「富山県魚津市石高原町の新開墳」
 宇奈月市教育委員会 2001「『野川』～越後守代の新開墳の調査～」
 大河原町教育委員会 1977「富山市大河原町の新開墳御用古墳調査報告書」
 大河原町教育委員会 1990「富山市大河原町の新開墳御用古墳調査報告書」
 小矢部市教育委員会 1992「小矢部市大河原町の新開墳御用古墳調査報告書」
 小矢部市教育委員会 1995「小矢部市大河原町の新開墳御用古墳調査報告書」
 小矢部市教育委員会 2006「富山市小矢部市新開墳御用古墳調査報告書」(国文25・62頁)1
 小矢部市教育委員会 2007「富山市小矢部市新開墳御用古墳調査報告書」(国文25・63頁)1
 上村町教育委員会 2004「富山市上村町新開墳御用古墳調査報告書」
 黒部市町役場 1964「黒部市史」
 公益財团法人富山県文化振興開拓整理文化財調査事務所 2012「早月上野遺跡発掘調査報告書」
 公益財团法人富山県文化振興開拓整理文化財調査事務所 2013「上久良呂中島遺跡発掘調査報告書」
 公益財团法人富山県文化振興開拓整理文化財調査事務所 2014「小矢部遺跡発掘調査報告書」
 公益財团法人富山県文化振興開拓整理文化財調査事務所 2002「原町遺跡発掘調査報告書」
 小矢部市教育委員会 2002「小矢部遺跡発掘調査報告書」
 小矢部市教育委員会 2003「小矢部遺跡発掘調査報告書」
 住立町教育委員会 1973「富山市住立町の新開墳御用古墳調査報告書」
 平岡町教育委員会 1988「下中野遺跡発掘調査報告書」
 高岡市教育委員会 1988「高岡市高岡遺跡発掘調査報告書」
 大河原町教育委員会 1994「富山市大河原町の新開墳御用古墳」
 富山県 1972「富山県史 考古編」
 富山市教育委員会・魚津市教育委員会 天保山遺跡保存会 1989「天保山遺跡調査報告書」
 富山市教育委員会・魚津市教育委員会 1983「1607年松代城の焼き討伐」(12)
 富山市教育委員会 1973「山城人・芦川山城の遺跡調査報告書」
 富山市教育委員会 1975「富山県守山市守山城跡の発掘調査報告書」
 富山市教育委員会 1976「富山県守山市守山城跡の発掘調査報告書」
 富山市教育委員会 1977「富山県守山市守山城跡の発掘調査報告書」
 富山市教育委員会 1977「『守山城跡』守山城跡の発掘調査報告書」
 富山市教育委員会 1992「『守山城跡』守山城跡の発掘調査報告書第一回(昭和57年)～第一回(昭和58年)」
 富山市下新屋町の新開墳御用古墳調査委員会 1971「『本阿彌高皇產靈殿』」
 富山市斎場所町の新開墳御用古墳 2012「『佐野山遺跡調査報告書』」
 富山県埋蔵文化財センター 2007「『川上作遺跡』出土地」
 富山県埋蔵文化財センター 2009「『次郎作付リソルトハマ 長山遺跡出土品集』」
 富山県埋蔵文化財センター・八幡市教育委員会 1985「『富山県八幡市長山遺跡・宝持古跡』発見品目録」
 富山市教育委員会 1975「富山市古川源流新開墳御用古墳調査報告書」
 富山市教育委員会 1983「『大河原遺跡』」
 富山市教育委員会 1988「『守山城跡』」
 富山市教育委員会 1996「『富山城跡』守山城跡、野中新長崎跡、宮守高野跡、高島馬鹿塚跡」
 富山市教育委員会 1973「『守山城跡』庄中城跡」(庄中城跡発掘調査報告書)」
 富山市教育委員会 2004「『守山城跡』庄中城跡」(庄中城跡発掘調査報告書)」
 富山市教育委員会 1987「『守山城跡』」
 富山市教育委員会 1988「『守山城跡』」
 市原町教育委員会 1979「『守山城跡』」
 守山町教育委員会 2000「『富山市守山町外輪山1号墳・福山1号墳』」(守山町発掘調査報告書)」

堀内 大介（埋蔵文化財センター 専門学芸員）

はじめに

黒瀬大屋遺跡は、富山市中心部から南へ約 5km の富山市南部、同黒瀬・黒崎地内に所在し、土川と熊野川に挟まれた扇状地上に立地する弥生時代後期～近世の集落遺跡である。

平成 29 年度の本調査では、8 世紀後半～10 世紀初め（Ⅰ期～Ⅲ期）の堅穴建物・掘立柱建物などが確認された。縄釉陶器、灰釉陶器、墨書き土器、刻書き土器などの遺物が出土しており、公的要素の強い集落の可能性が示唆されている（富山市教委 2018）。

ここでは、令和 3 年度に黒瀬大屋遺跡の試掘調査で出土した馬形について報告する。馬形が出土した場所は、平成 29 年度本調査区の北西約 200m を流れる旧流路跡 SD01 の川底付近である（写真 1、p1 参照）。

あわせて富山県内出土馬形の集成を行う。

1 馬形の規格・年代（図 1）

出土した馬形は、ほぼ完形の馬形である。柾目材を用いている。口・耳・尾毛を表現する切込があるほか、腹の側面には台を取り付ける「一」状の切込がある。背部は欠損しており、鞍を表現する切込があったか不明である。手綱などの墨書きについては不明瞭で判別が難しい。全長 14.9 cm、最大幅 2.1 cm、最大厚 0.4 cm を測る。尾部の厚みはやや薄くなる。

馬形と共に伴して、旧流路 SD01 からは 8 世紀後半～9 世紀前半の土師器、須恵器、加工木などが出土しており、馬形の時期は 8 世紀後半～9 世紀前半と考えられる。この時期は平成 29 年度本調査のⅠ期（8 世紀後半～9 世紀前半）と同時期である。

2 富山県内における馬形の出土事例（図 3、表 1）

馬形は、県内 8 遺跡で事例報告がされている。1974（昭和 49）年、入善町じょうべのま遺跡での出土が県内で初めての事例である（入善町教委 1975）。その後、高岡市や射水市など特に吳東地域において、馬形もしくは馬形（鳥形）の可能性のあるものが報告されている。ほぼ全て事例が、畜串や人形などの祭祀木製品とともに構から出土している。

（1）高岡市中保 B 遺跡 第 8 次調査 5 区 SX03（SD01 最下層）

SX03 は調査区内を蛇行しながら西から東へ横断する流路 SD01 最下層の遺物集積遺構である。ここから土師器、須恵器、木製品（木筒、人形、鳥形、舟形、琴柱形、刀子形、畜串など）などの 7 世紀中頃～9 世紀中頃の遺物が共伴して出土している。

2 は馬形の可能性がある遺物で、尾部が欠損する。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 15.8 cm 以上、最大幅 3.8 cm、最大厚 1.0 cm を測る。

（2）高岡市東木津遺跡 堀井地区凹地 SX06

SX06 は南東方向へ緩やかに落ち込む凹地（谷地形）である。ここから土師器、須恵器、木製品（木筒、人形、鳥形、舟形、琴柱形、刀子形、畜串など）などの 8 世紀後半～9 世紀前半の遺物が共伴して出土している。

3 は中央部で 2 つに折れているが、完形の馬形である。口・耳・鞍を表現する切込はない。



写真 1 馬形出土状況近景

全長 26.3 cm、最大幅 3.7 cm、最大厚 0.6 cm を測る。4 は尾部片である。全長 12.8 cm 以上、最大幅 5.2 cm、最大厚 1.2 cm を測る。5 は頸部片で、口先部および胴部以下が欠損している。全長 8.1 cm 以上、最大幅 2.6 cm、最大厚 0.5 cm を測る。

(3) 高岡市下佐野遺跡 D 地区 SD002

南西から北東へ流れる溝で、数回にわたり改築が行われた。ここから墨書き土器、墨画土器、人面墨書き土器、木製品（人形、畜串、舟形、鳥形、点け木など）などの 8 世紀後半～10 世紀前半の遺物が共伴して出土している。

6 は完形の馬形である。口・耳・鞍を表現する切込があるほか、腹の側面に台を取り付ける「一」状の切込がある。両面に墨書きがあり、手綱や鐙などが描かれている。全長 15.9 cm、最大幅 2.4 cm、最大厚 0.5 cm を測る。7 は頭部から胴部までの完形と考えられる。口・鞍を表現する切込がある。全長 22.9 cm、最大幅 2.4 cm、最大厚 0.3 cm を測る。8 は中央部で 2 つに折れているが、完形の馬形である。ただし、かなり簡略化されたものである。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 18.4 cm、最大幅 2.4 cm、最大厚 0.4 cm を測る。9 は尾部が欠損している。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 13.1 cm 以上、最大幅 1.4 cm、最大厚 0.4 cm を測る。10 は胴部以下が欠損している。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 7.0 cm 以上、最大幅 1.1 cm、最大厚 0.2 cm を測る。11 は馬形の可能性のある木製品で、尾部が欠損している。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 8.2 cm 以上、最大幅 1.7 cm、最大厚 0.4 cm を測る。

(4) 高岡市出来田南遺跡 D 区 大溝

南東から北西へ流れる大溝である。大溝から墨書き土器、人面墨書き土器、土師器、須恵器、木製品（荷札木筒、習書木筒、呪符木筒、畜串、舟形、火鑄臼など）の 8 世紀後半～9 世紀前半の遺物が共伴して出土している。

12 は完形の馬形である。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 20.7 cm、最大幅 2.4 cm、最大厚 1.2 cm を測る。13 は馬形の可能性のある木製品で、口先部、胴部以下が欠損している。耳・鞍を表現する切込はない。全長 19.0 cm 以上、最大幅 5.6 cm、最大厚 0.8 cm を測る。

(5) 射水市（旧大島町）北高木遺跡 D 区 SD100

SD100 は、南西から北東へ流れ、蛇行しながら途中で北へ折れる旧河道である。旧河道から墨書き土器、人面墨書き土器、土師器、須恵器、木製品（出舉木筒、習書木筒、荷札木筒、畜串、人形、舟形、琴形、木皿、曲物、火鑄臼など）の 8 世紀後半～10 世紀初頭の遺物が共伴して出土している。

14 は口先部が欠損しているが、ほぼ完形の馬形である。鞍を表現する切込がある。片面に墨書きがあり、手綱などが描かれている。全長 20.0 cm、最大幅 2.2 cm、最大厚 0.5 cm を測る。15 は尾部が欠損している。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 13.8 cm 以上、最大幅 1.8 cm、最大厚 0.3 cm を測る。16 は完形の馬形（太形）である。口を表現する切込がある。全長 10.8 cm、最大幅 2.1 cm、最大厚 0.4 cm を測る。17 は馬形（太形）で、尾部が欠損している。耳を表現する切込がある。全長 12.8 cm 以上、最大幅 2.2 cm、最大厚 0.3 cm を測る。

(6) 射水市（旧小杉町）赤田 I 遺跡 3 地区 SD01・8 地区 SD01

SD01 は、南西から北東へ流れる溝である。溝から墨書き土器、土師器、須恵器、木製品（畜串、人形、舟形、鳥形、刀形、鎌、鉢、木皿、曲物、下駄、檜扇、火鑄臼など）の 8 世紀後半～10 世紀前半の遺物が共伴して出土している。

18 は完形の馬形である。鞍を表現する切込がある。全長 23.4 cm、最大幅 3.3 cm、最大厚 0.4 cm を測る。19 は完形の馬形である。耳・鞍を表現する切込がある。全長 20.8 cm、最大幅 4.2 cm、最大厚 0.4 cm を測る。20 は馬形もしくは鳥形の可能性がある遺物で、尾部が欠損している。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 37.0 cm 以上、最大幅 2.6 cm、最大厚 1.1 cm を測る。21 は完形の馬形である。鞍を表現する切込がある。全長 23.7 cm、最大幅 4.2 cm、

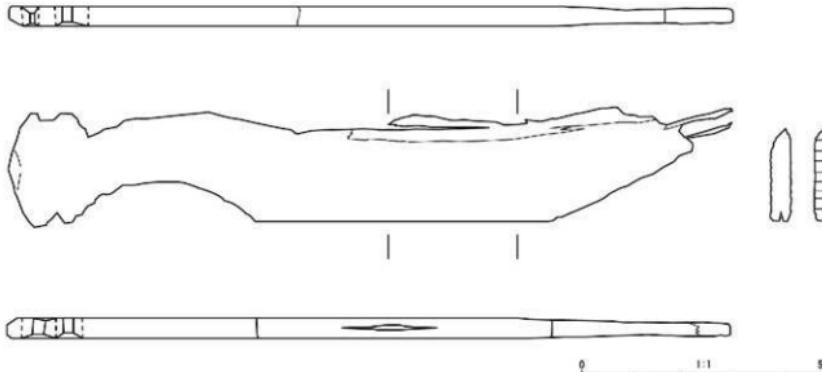


図1 馬形実測図

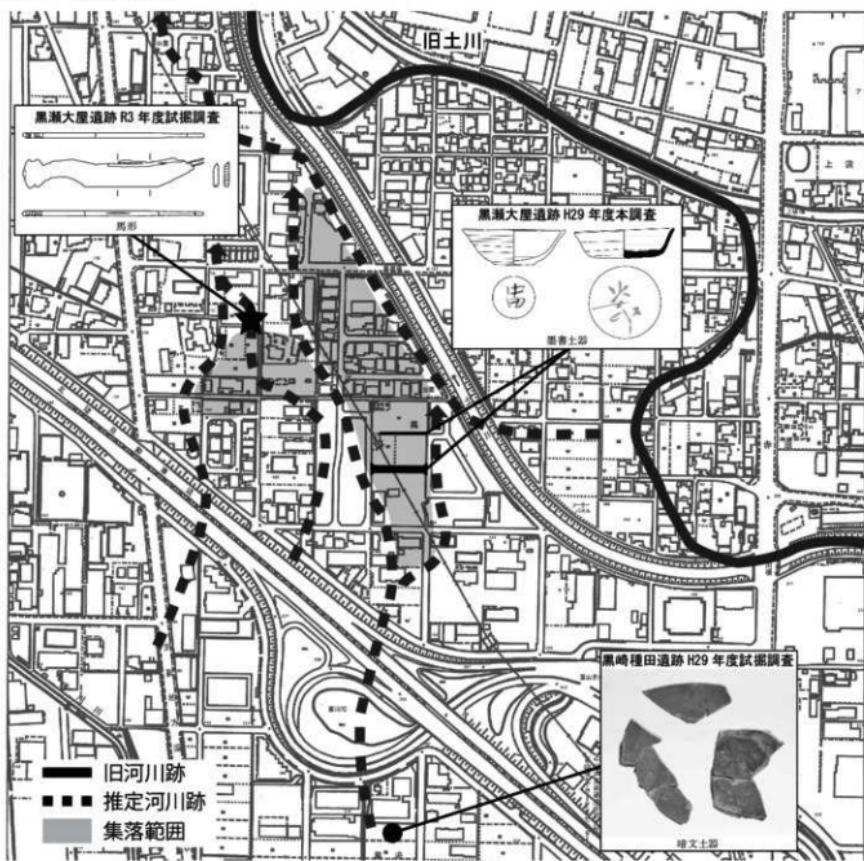
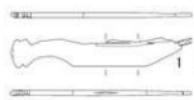
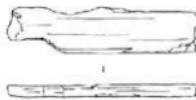


図2 黒瀬大屋遺跡・黒瀬種田遺跡周辺図 (1 : 5 000)

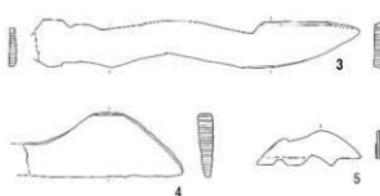
黒瀬大屋遺跡



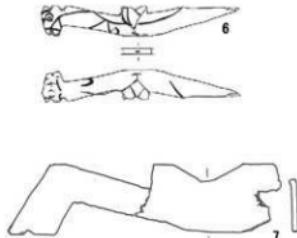
中保B遺跡



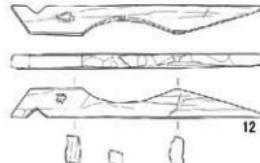
東木津遺跡



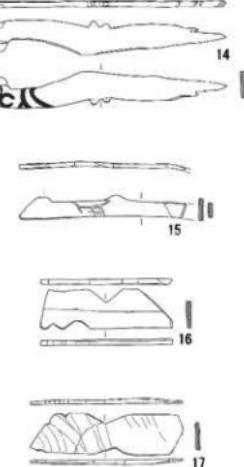
下佐野遺跡



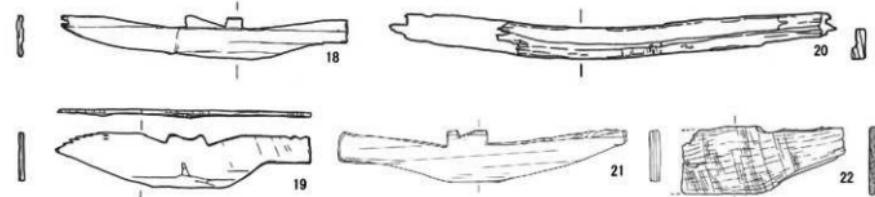
出来田南遺跡



北高木遺跡



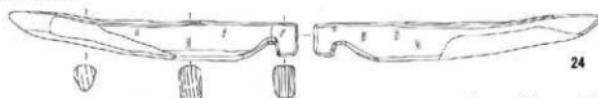
赤田 I 遺跡



じょうべのま遺跡



弓庄城跡



0 1:4 10cm

図3 富山県出土の馬形集成（1/4）

番号	市町村	遺跡名 (調査年度)	遺構	時期	種類	法量 (mm)			墨書き	口	耳	鞍	備考	図版番号
						高・低	幅	厚						
1	富山市	黒瀬大屋遺跡 (2021)	試掘4T 旧表層SD01	8世紀後半 ～9世紀前半	馬形	149	21	4	有	有			完形 腹に差込用切込あり	本報告
2		中保寺遺跡 (1997)	第4次調査 5区 S303 (SD01最下層)	8世紀後半 ～9世紀前半	馬形?	(158)	38	10						図版7-1 6031
3		東木床遺跡 (1999)	掘井地区 凹地S306	8世紀後半 ～10世紀前半	馬形	263	37	6					完形	図版16 7021
4					馬形	(128)	52	12						図版16 7022
5					馬形	(81)	26	5						図版16 7023
6	高岡市	下佐野遺跡 (2009)	D地区 S9002	8世紀後半 ～10世紀前半	馬形	159	24	5	両面	有	有	有	完形 腹に差込用切込あり	第2-63図 1088
7					馬形	229	24	3		有		有	頭部～鞍部片 (完形)	第2-63図 1089
8					馬形	184	24	4					完形	第2-63図 1090
9					馬形	(131)	14	4						第2-63図 1091
10					馬形	(70)	11	2						第2-63図 1092
11					馬形?	(82)	17	4						第2-61図 1056
12		出来田南遺跡 (2011)	D区 大堀	8世紀後半 ～9世紀前半	馬形	207	24	12					完形	第82図 660
13					馬形?	(190)	56	8						第82図 661
14	射水市	北高木遺跡 (1994)	D区 SD100	8世紀後半 ～10世紀初頭	馬形	200	22	5	片面		有	ほほ完形 (口先部一部欠損)	第129図 1623	
15					馬形	(138)	18	3						第129図 1620
16					馬形	108	21	4		有			完形	第129図 1621
17					馬形	(128)	22	3						第129図 1522
18		赤田I遺跡 (2002)	3地区 SD01	8世紀後半 ～10世紀前半	馬形	234	33	4			有	完形	第28図 8	
19					馬形	208	42	4		有	有	完形	第28図 9	
20		(2003)	8地区 SD01	8世紀後半 ～10世紀前半	馬形? or 鳥形?	(370)	26	11						第28図 10
21					馬形	237	42	9			有	完形	第39図 709	
22					馬形?	(131)	55	7						第10図 63
23	入善町	じょうべの生遺跡 (1974)	第5次調査 A地区 SM037	8世紀末 ～10世紀初頭	馬形	169	29	6	片面		有	完形		第8図 5
24	上市町	弓庄城跡 (1983)	第4次調査 E1地区 SE007	15世紀	馬形 or 鳥形	235	32	18					完形	図版7 1

表1 富山県における馬形出土一覧

最大厚 0.9 cm を測る。22 は馬形（太形）で、頭部が欠損している。鞍を表現する切込はない。全長 13.1 cm 以上、最大幅 5.5 cm、最大厚 0.7 cm を測る。

（7）入善町じょうべのま遺跡 第 5 次調査 A 地区 SA037

柵列 SA037 から出土とされる。周辺からは 8 世紀末～10 世紀初頭の遺物が出土している。23 は完形の馬形である。耳・鞍を表現する切込がある。片面に墨書きがあり、目やたてがみが描かれている。全長 16.9 cm、最大幅 2.9 cm、最大厚 0.6 cm を測る。

（8）上市町弓庄城跡 第 4 次調査 E1 地区 SE007

SE007 は本丸南側にある井戸である。井戸から漆を施した曲物底板が共伴している。周辺からは 15～16 世紀の遺物が出土しているが、古代の遺物はない。

24 は完形の馬形ないしは鳥形である。口・耳・鞍を表現する切込はない。全長 23.5 cm、最大幅 3.2 cm、最大厚 1.8 cm を測る。

3まとめ

富山市内の古代祭祀遺物として、豊田大塚・中吉原遺跡（古代新川郡）や花ノ木 C 遺跡（古代射水郡）から人面墨書き土器、人形、畜串などの出土はあるが、馬形の出土はない。今回の報告が市内で初めての馬形出土となる。

県内出土事例と比較すると、今回報告した馬形は、下佐野遺跡、北高木遺跡、じょうべのま遺跡で出土した墨書きのある馬形と同タイプのものと考えられ、欠損部には鞍を表現する切込はあったものと推測される。また他遺跡同様に墨書きで馬の細部を描いていた可能性もある。

図 2 に示すように富山 I C を挟んで隣接する黒瀬大屋遺跡と黒崎種田遺跡から墨書き土器、暗文土器、縁釉陶器、灰釉陶器などが直径 600m 以内の非常に狭い範囲からまとまって確認されている。これらの遺物は、主に郡衙や郷衙などの役所施設から出土することが多いものである。馬形が出土したことは、この場所に郡や郷の役所施設があった可能性がより高まったと言え、馬形が役所施設の律令祭祀における「祓い」で使用されたと考えられる。

木本秀樹氏は、「熊野川が婦負郡と新川郡の郡界であった可能性を指摘することができる」（木本 2017）とされており、熊野川右岸に立地する黒瀬大屋遺跡や黒崎種田遺跡は古代新川郡に属していたと考えられる。

藤田富士夫氏は、古代の遺跡分布や古代道路の比定を基に新川郡内の郷域を擬定されたが、「富山市南部地域にまったく触れることがなく論述した」とされる（藤田 2004b）。近年の発掘調査で、官衙関連施設の可能性が示唆された黒瀬大屋遺跡や総曲輪遺跡（鹿島 2011）などは、藤田氏の擬定から外れていた地域に所在しており、改めて郷域の検討する必要があるだろう。

最後に、本稿を作成するにあたり、堀沢所長にご助言を頂いた。記して謝意を表す。

参考文献

- 射水市教育委員会 2006『赤田 I 遺跡発掘調査概要(2)』
大鳥町教育委員会 1995『北高木道路発掘調査報告書』
鹿島昌也 2011『富山城西ノ丸跡から奈良時代の墨書き土器』『富山市の遺跡物語』No.12 富山市埋蔵文化財センター
上市町教育委員会 1984『弓庄城跡第 4 次緊急発掘調査概要』
木本秀樹 2017「古代後期から中世前期にみえる婦負郡社会の一齣」『富山市の遺跡物語』No.18 富山市埋蔵文化財センター
小杉町教育委員会 2003『赤田 I 遺跡発掘調査報告』
小杉町教育委員会 2005『赤田 I 遺跡発掘調査概要(1)』
高岡市教育委員会 2006『市内遺跡調査概報 X』
高岡市教育委員会 2002『中保 B 遺跡調査報告』
(公財)富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 2015『出来田南遺跡発掘調査報告』
富山県埋蔵文化財センター 2011『下佐野遺跡発掘調査報告』
入善町教育委員会 1975『じょうべのま遺跡発掘調査概要(3)』
藤田富士夫 2002『古代婦負郡の「郷」擬定と柳谷南遺跡』『柳谷南遺跡発掘調査報告書III』 富山市教育委員会
藤田富士夫 2004a『大伴家持の歌に見る渡河地点について』『富山市の遺跡物語』No.5 富山市埋蔵文化財センター
藤田富士夫 2004b『古代越中国新川郡の「道」と「郷」に関する若干の考察』『人文社会学研究所年報』No.2 敬和学園大学

研究報告 3 越中丸山焼の銘印・窯印・文様

鹿島 昌也 (埋蔵文化財センター 専門学芸員)

坂田 志穂 (同 学芸員)

はじめに

越中丸山焼は、富山市八尾町丸山地内に位置する江戸後期の陶磁器窯で生産された。窯は文政 12 (1829) 年あるいは天保元 (1830) 年に甚左衛門によって開窯され、明治 27 (1894) 年頃まで約 65 年間操業していた。昭和 36 年には「越中丸山焼陶窯跡」として、八尾町指定文化財 (史跡) 第 1 号に指定され、平成 17 (2005) 年の市町村合併後は富山市指定文化財となっているが、窯跡の発掘調査は実施されておらず、その実態は不明な点が多い。

一方で越中丸山焼とされる製品の伝世品も多く、昭和 50 年 3 月に富山市立郷土博物館 (現・富山市郷土博物館) で同館および越中丸山焼研究同好会主催による「越中丸山焼」展が開催され、119 点の越中丸山焼が出品された。旧八尾町所蔵資料の中に、越中丸山焼研究同好会 (昭和 46 年発足・同 60 年頃解散) によって作成された「越中丸山焼について」と題した資料が綴られていた。郷土博物館の展示会後の昭和 50 年 5 月に作成され、見込印・高台印・窯印・文様を模写した表が添付されている。中には、出土品などに付された印や文様と共に通するものがみられた。資料はコピーでやや不鮮明なことから、この模写の内、銘印や窯印を中心としてデータ化して紹介することで、今後の越中丸山焼の調査・研究の参考としたい。

1 越中丸山焼の概要

越中丸山焼は、当初は陶器のみの焼成で九谷・清水に倣った日常雑器を製作し、後に有田・平戸などから原料を取り寄せて九谷や伊万里に倣った磁器も生産、その完成は嘉永年間以降とされる。磁器の原材料の陶石は岐阜県飛騨の渋草から取り寄せていたことを示す文書もある。陶土については、越中丸山焼窯跡の南東 1km には中世期に生産された八尾焼を焼成した京ヶ峰窯跡群が所在し、近隣で陶土となる粘土が採取できる環境下にあったことがうかがえる。陶工や絵付師には尾張出身者が多く、有田や九谷から招かれた者もいたようである。

窯場は、富山藩 10 代藩主前田利保の援助を受け、最盛期には四間一尺に十一間の製造場と八間半に十六間の窯場に十三個の窯 (十三房の連房式登窯か) が並んでいた。天保 8 (1837) 年には「他国唐津物差止め井手村丸山焼使用申渡書」の御触れが出され丸山焼の国産を奨励したが、安政 5 年の大地震で被害を受け、明治維新を経て藩の庇護を失い次第に衰退した。

平成 6 (1994) 年の県埋蔵文化財センターによる試掘調査で、窯の物原 (失敗品の廃棄場) が検出された。同 29 年には、窯跡から約 70m 北東で富山市教育委員会による発掘調査が実施され、越中丸山焼の素焼品や窯道具が出土し、陶磁器生産伴う作業場の広がりを確認した。

近年の市内における発掘調査で、近世～近代陶磁器の中に越中丸山焼とみられる製品が一定量含まれていることが判明している。その流通は、県西部の高岡市江尻遺跡や小矢部市五社遺跡にもみられ、金沢市本町 1 丁目遺跡でも越中丸山系とされる陶器の出土報告がある。

2 銘印・窯印・文様について

盃・猪口・皿・湯呑など 21 種に分類された器種毎に印・文様が紹介されている。器種の名稱は、当時の資料そのまま用いた。見込や高台に付される窯印には福・禄・寿など九谷や瀬戸などに付される印に類似するものもみられ、陶工の行き来があったことを物語る。文様は

仏花器	「源氏香」の印文
仏湯呑	 雁金
盃	
盃置台(盃台)	
盃洗	
徳利 (◎印は丸山と 九谷の合作)	
猪口	
香炉	

図1 越中丸山焼の銘印・窯印・文様（1）

（※資料に枠線は示されていない）

草花や太陽、雲など自然界の風物をモチーフにし、図案化したものがほとんどである。色絵には、今回紹介はできなかつたが、絵付師による花鳥や人物、動物などをモチーフにしたものもみられる。上手のものには、赤絵、五彩、金欄手によるものもみられる。

蕪麦猪口	
湯蕪呑	
皿	
角小皿	
小皿 (刺身皿も含む)	
中皿	
大皿	

図2 越中丸山焼の銘印・窯印・文様（2）

越中丸山焼について、これまでの遺跡調査で嘉永年間に焼成が始まった磁器より、陶器製品が多くみられる。磁器は、素地を他産地から仕入れ、染付や色絵を製作していたものも多いようで、越中丸山焼とされる磁器については、他産地製品との見分けが重要になるだろう。

湯呑	
湯呑茶碗	
茶碗	
蓋付茶碗 (A ~ G) 上は蓋印 下は身印 (H) 蓋の表裏	<p>A ~ G: Lid patterns H: Lid underside pattern</p>
喰初茶碗	

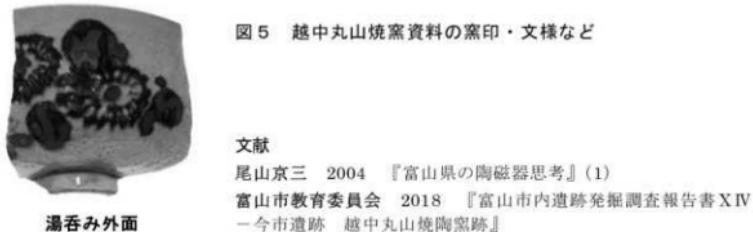
図3 越中丸山焼の銘印・窯印・文様（3）

小鉢(くわん)	図 3 元		
浅鉢	元		
深鉢(手水)	元		
鉢	元		
鉢・皿			
薬味入	元		
丼鉢			油つぼ
湯さまし	元		
筆立			

図4 越中丸山焼の銘印・窯印・文様 (4)



図5 越中丸山焼資料の窯印・文様など

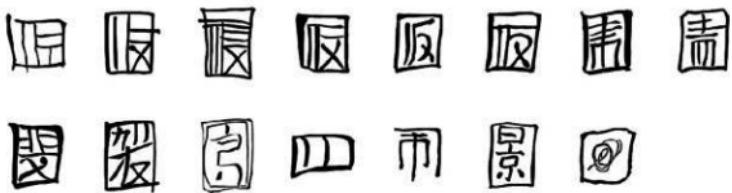


文献

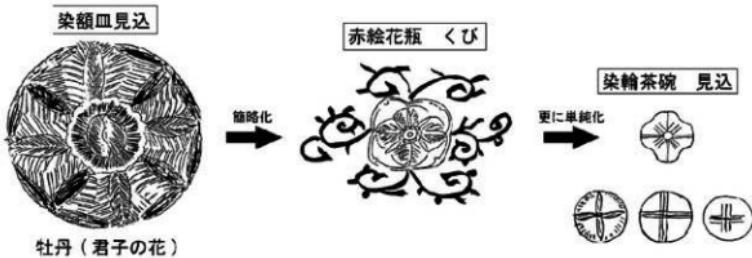
尾山京三 2004 『富山県の陶磁器思考』(1)

富山市教育委員会 2018 『富山区内遺跡発掘調査報告書 XIV
—今市遺跡 越中丸山焼陶窯跡』

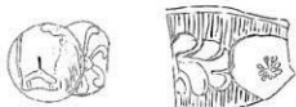
高台内の銘印



植物文様の変化



単純化された独特な文様例



見込に記された吉祥文



窯印(見込、高台、胴)

福	國	慶	昌	昌	國	昌
祿	國	慶	昌	昌	國	昌
壽	高	慶	昌	昌	圓	昌
年号	萬	昌	年	昌	萬	昌
造	萬	昌	年	昌	萬	昌
その他	國	玩	久	幸	四	昌
	昌	久	幸	幸	昌	。

鹿島 昌也（埋蔵文化財センター 専門学芸員）
納屋内 高史（同 学芸員）

はじめに

富山市總在寺地区（旧・大利地区）に所在する高見家が、国道41号高規格道路建設に伴い移転が決まったことから、同家で所蔵していた縄文時代の石斧などをこのほど寄付いただいた。

高見家では『新保郷土誌』(p761) に「大利遺跡出土品」として紹介された金属製高杯を所有しておられ、実見および図化・写真撮影をさせていただいた。さらに、同じ郷土誌 (p758) に紹介された「梵字の石仏」についても触れる。



図 1 遺跡位置図

1 大利屋敷遺跡について

遺跡は神通川左岸の扇状地に位置し、標高42～43mを測る。遺跡の東約300mには、扇状地との比高差で5mある中位段丘の大沢野台地があり、西約1kmには神通川が流れている。

『新保郷土誌』によると大利地区には「昭和の初め頃まで大利の囲の鍵型の残跡があった。残跡は長さ10m、高さ約2mの土居で、周囲に堀が巡らされていた。」とあるが、土居などは土地改良で削平され残存していない。かつて「高貴な方がしばらくの間仮住居されたので、地名を「内裏」と書かれた」とされ、後三条天皇の第三皇子宮が承暦年間（1077～81年）に越中に下向し、仮居住した遺址であるとの伝承（『背構泉達録』）があるが、定かではない。

昭和60年には県営公害防除特別土地改良事業に伴う試掘調査が行われた。縄文晩期の円形落ち込みや平安期の土坑などを確認したが、屋敷跡や土塁などの痕跡は確認できなかった。出土遺物には、縄文晩期の土器や石器、平安期の須恵器・土師器があり、墓壙とみられる土坑からは平安末期以降に国内で流通した北宋銭「元豐通宝」（1078～85年鋳造）が出土した。

2 縄文時代石器について

1～11は打製石斧である。短冊形、撥形、分銅形の各形態があり、11点中9点を撥型が占める。完形品が多く、法量は幅で概ね70～90mm前後、厚さで20～40mm前後に収まるものの、長さは110～130mm前後と160～180mm前後に分かれ。重量は長さ110～130mm前後のものは200～400g前後、160～180mm前後のものは400～600g前後と長さに応じてほぼ二分される。石材はほとんどが安山岩である。製作技法について、1は長楕円礫の縁辺を剥離、敲打し形状を作出するが、それ以外は円礫や砥石、石皿等から剥離した大型薄片を剥離、敲打により整形し形状を作出する。大型薄片を整形したものの中には、側縁部に階段状剥離痕の見られるものが存在し、形状の作出に垂直打撃技法が用いられたと考えられる。使用痕は、刃部が線状に刃潰れしたものや片刃状に摩滅したもの、刃部の主面片側が剥落したものが多く見られる。打製石斧の刃部使用痕は、鍔先として用いられた場合、使用痕が刃部の主面片側に集中することが指摘されており（板垣2017等）、本資料の傾向も鍔先としての使用によると考えられる。12は砥石である。安山岩の大型薄片を用いた撥型の打製石斧を転用したとみられる。13は磨石である。砂岩製である。14は石鋸形石器とみられる。湾曲した内側に「刃部」を持ち、いわゆるバナナ形石器に類似する。半裁した砂岩の大型円礫の割れ口を更に4

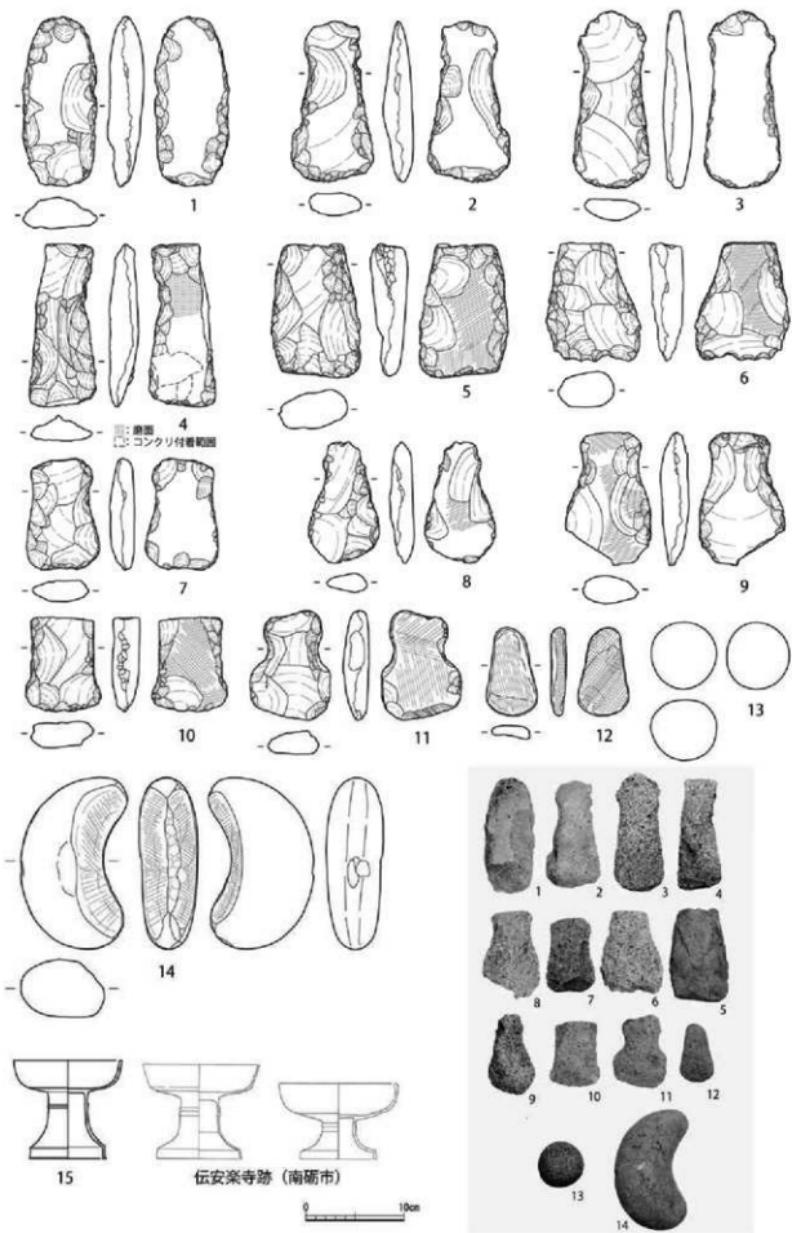


図2 出土遺物実測図および出土石器写真

表1 出土石器観察表

No.	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重さ (g)	石材	備考
1	打製石斧	172.0	76.0	32.0	541	安山岩	短冊形 扁平な長楕円盤の側縁部を剥離、敲打することにより整形 原礫面顕著に残る。使用痕は縱方向の剥離
2	打製石斧	163.0	82.5	24.1	380	砂岩	擦型 円盤から剥離した大型薄片を剥離、敲打することにより整形 一面に擦り面顕著に残る 一部に階段状剥離痕が見られる 使用痕はあまり顕著でない
3	打製石斧	180.5	76.2	29.1	451	安山岩	擦型 円盤から剥離した大型薄片を剥離、敲打することにより整形 一面に原礫面顕著に残る 使用痕はあまり顕著でない
4	打製石斧	166.0	(66.2)	29.2	361	安山岩	擦型 石皿または砥石を打ち割ってできた大型薄片を剥離、敲打することにより整形 一面に擦り面残る 一部に階段状剥離痕が見られる 使用痕は刃部斜め方向の摩滅+細かな剥離 使用痕はあまり顕著でない
5	打製石斧	(136.0)	90.0	40.0	545	安山岩	短冊形? 石皿または砥石を打ち割ってできた大型薄片を剥離、敲打することにより整形 一面に擦り面残る 一部に階段状剥離痕が見られる 使用痕は刃部斜め方向の摩滅+細かな剥離
6	打製石斧	(120.1)	94.0	35.8	431	安山岩	敲打することにより整形 一面に擦り面残る 一部に階段状剥離痕が見られる 刃部破損 使用痕は細かな剥離
7	打製石斧	113.0	75.0	25.0	250	安山岩	擦型 円盤から剥離した大型薄片を剥離、敲打することにより整形 一面に原礫面顕著に残る 一部に階段状剥離痕が見られる 使用痕は縱方向の剥離+潰れ
8	打製石斧	123.0	71.5	19.5	180	安山岩	擦型 磨石または砥石を打ち割ってできた大型薄片を剥離、敲打することにより整形 原礫面顕著に残る 使用痕あまり顕著でない
9	打製石斧	135.5	87.0	28.0	360	安山岩	擦型 磨石または砥石を打ち割ってできた大型薄片を剥離、敲打することにより整形 一面に擦り面残る 一部に階段状剥離痕が見られる 刃部破損 使用痕は細かな剥離?
10	打製石斧	(96.0)	76.5	26.5	259	安山岩	擦型 石皿または砥石を打ち割ってできた大型薄片を剥離、敲打することにより整形 一面に擦り面残る 使用痕は刃部斜め方向の摩滅 使用痕あまり顕著でない
11	打製石斧	111.5	80.5	24.0	271	凝灰岩	分銅型 石皿または砥石を打ち割ってできた大型薄片を剥離、敲打することにより整形 一面に擦り面残る 刃部は片刃状に摩滅
12	砥石	89.5	51.5	14.8	82	安山岩	小型化した擦型打製石斧の全面を研磨 打製石斧は円盤から剥離した大型薄片を剥離、敲打することにより整形 一面に原礫面残る
13	磨石	68.0	66.9	61.8	391	砂岩	球形
14	石錠型石器	174.0	84.0	58.5	1351	砂岩	バナナ型 円盤を打ち割った後、割れ口をさらに4回剥離することにより湾曲部と刃状部を形成 打ち割り部分を敲打+研磨することにより仕上げる

回剥離し、敲打、研磨を加え「刃部」を作出する。把手部の整形はあまり顕著でない。石錠形石器は縄文時代晩期後半に盛期を迎える、県内では県東部に分布が集中する(小島 1985、麻柄 1986)。このうち、湾曲した内側に「刃部」を持つものは、南砺市田向遺跡の例が知られるほか、周辺地域の例では岐阜県高山市石原遺跡例が知られる。これら2例と比較すると本資料は粗雑な作りであり、未製品の可能性も含め、検討していくことが必要であろう。

今回寄贈された資料は、ほとんどが打製石斧で占められる点が特徴的である。北陸地方の縄文時代の石器組成は晩期後半になると打製石斧が大半を占める遺跡の多くなることが指摘されている(麻柄 2020)。本遺跡の1986年度調査で縄文時代晩期後葉の土器の出土が報告されていることも踏まえれば、このことは本資料の帰属時期が縄文時代晩期後半である可能性を示唆する。晩期後半に多く出土する石錠形石器が含まれる点もこの可能性を裏打ちするものといえるだろう。本遺跡から出土した石器類については、1986年度調査で打製石斧1点の表採が報告されているのみであり、縄文時代の本遺跡でどの様な生産・生業活動が行われていたのか不明確な点が多くあった。今回、寄贈された資料は縄文時代晩期後半の本遺跡において、同時代の他遺跡と同様な生産・生業活動が行われていたことを示唆するといえ、縄文時代における本遺跡の生活像を考える上で重要である。

3 金属製高杯、梵字の石仏について

金属製高杯（飯食器）(15)は、『新保郷土誌』に「大利遺跡出土品」として紹介されている。口径 11.0cm、高さ 10.0cm、底径 7.6cm を測り、表面に緑青の鋳が観察され、金銅製とみられる。杯部外面下部に 1 条の沈線を、脚部外面に縄帶を巡らせる。県内の出土類例として、南砺市梅原（旧福光町）の伝安楽寺跡周辺出土とされる飯食器 2 点（同市正円寺所蔵）がある。実測図を比較すると、高杯は伝安楽寺跡出土の器高の高い方の飯食器に似ていることがわかる。伝安楽寺跡には塚が所在し、塚上には石碑や五輪塔の地輪、水輪があり、出土品は寺院に関連したものと推測されている。



金属製高杯

「大利遺跡」は高見家の南東に所在するが、高杯が出土した場所は、高見家の北側に位置する「大利屋敷遺跡」である。区画整理前まで、大利屋敷遺跡周辺は高見家の土地で、縄文時代の石器類もこの付近からの出土である。昭和 60 年の試掘調査では、平安末期以降の錢貨を伴う墓壙が検出されており、金属製の高杯もこの付近からの出土ならば、伝安楽寺跡の飯食器の出土例を参考にすると、平安末～中世前期頃の寺院に関連する品と推測される。

一方、『新保郷土誌』に紹介されている「梵字の石仏」について、これまで旧大利地区から大沢野台地上の大久保地区への登り口の路傍に石碑が立っていた（図 1）。長らく高見家が石碑周辺の草刈りを行っていたが、移転のため管理が行き届かなくなることから、高規格道路となる土地の残地の一角へ移設することになった。聞き取りでは、この石碑についても、元は大利屋敷遺跡付近にあつたものを大久保集落への登り口に移設されていたようである。この石碑も寺院に関連した可能性が高い。旧大利地区の伝承とともに、今後さらなる検証が必要となるだろう。



梵字の石仏

文献

- 板垣優河 2017 「石器使用痕から見た打製石斧の機能—縄文時代生業の復元に向けて—」『古代文化』69、古代学協会
小島俊彰 1983 「平村の縄文遺跡」『平村史 上巻』、平村
新保校下自治振興会 1985 『新保郷土誌』
大工原豊・長田友也・蛭石徹編 2020 『縄文石器提要』ニューサイエンス社
(財)富山県文化振興財團 1994 『梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会 1986 『大利屋敷遺跡調査報告書』
麻柄一志・麻柄幸子 1986 「石鏡考一富山市野田遺跡採取の石鏡一」『富山市考古資料館報』14、富山市考古資料館
麻柄一志 2020 「北陸地方」『縄文石器提要』ニューサイエンス社
吉朝則富 2017 「飛驒の石鏡型石冠について」『同志社考古』14、同志社大学考古学研究会

令和 3 年度 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 №23

令和 4 (2022) 年 3 月 31 日発行

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒939-2798 富山市婦中町連星 754 婦中行政サービスセンター3階

TEL : 076-465-2146 FAX : 076-465-5032

Email : maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印 刷 有限会社ヤツオ印刷